

継ぎ接ぎの

死神

DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

継ぎ接ぎの

死神

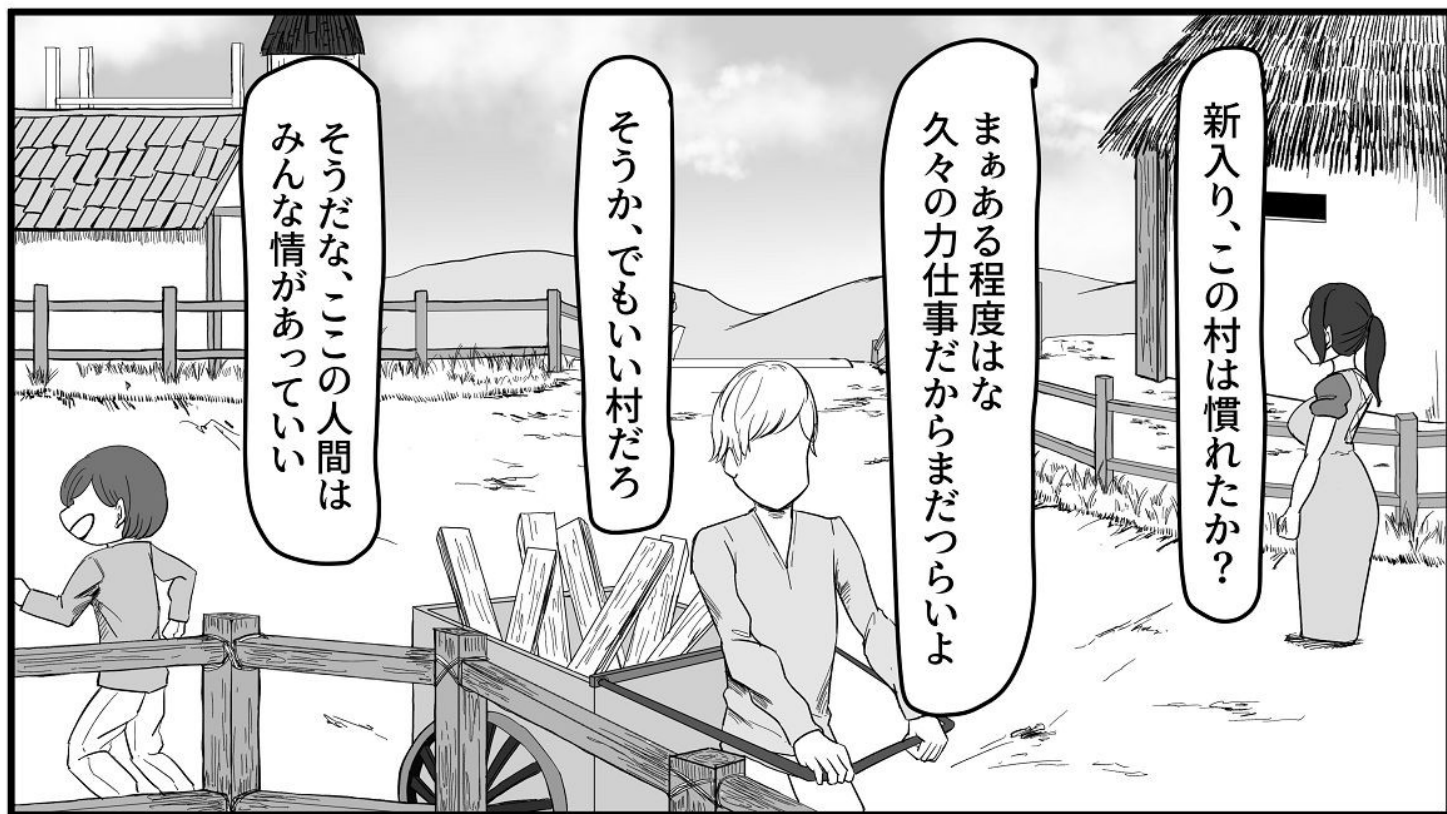
DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

エルフが栄えていた遠い昔――

エルフの女王を守る
最強の矛と盾をその身一つで成す
偉大な英雄が存在した

その身体には
神が宿っていた





新入り、この村は慣れたか？

まあある程度はな
久々の力仕事だからまだつらいよ

そうか、でもいい村だろ

そうだな、ここの人間は
みんな情があつていい



…ん？アイツら誰だ？
ここらじゃ見たことないな

ああ、奴隷商だな

え、こんなところまで
来るのか

売れずに捨てると犯罪の温床
になっちゃうからな

へえ…



ただここに来る奴隷は
いかんせん質が悪い



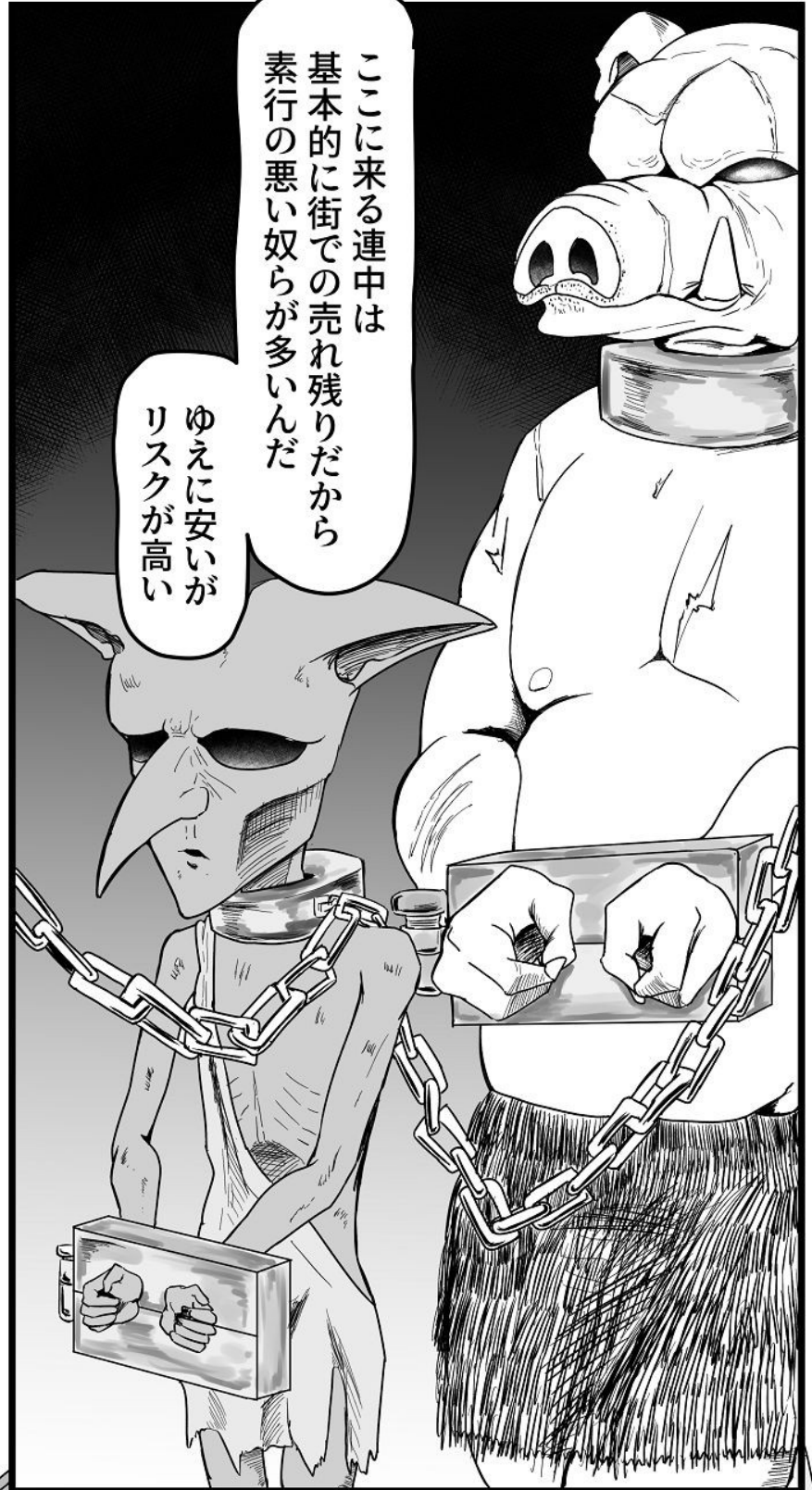
全くはた迷惑な連中だよ

村の奴らもそれを理解してるから
誰も買いたがらない



素行が悪い奴隷は
盗みを働いて逃亡するが
結局捕まるケースが多い

そして再び奴隷となって
価値も下がる



ここに来る連中は
基本的に街での売れ残りだから
素行の悪い奴らが多いんだ

ゆえに安い
リスクが高い



いい加減国の連中は
この現状に気づけて話……

えっ

どうした新入り

おい、なんだあのエルフの奴隷！
めちやくちやエロい体してるじゃん

しかも銅貨3枚!?
おいこんなの買いだろ

やめとけ、あの奴隷は
巷じゃ有名なくらいやばいぞ

…は？
どうやばいんだよ

あいつを奴隷として買った
人間は全員死んでる



その昔、ある街に何の前触れもなく
突如と現れたのがあのエルフだったんだよ

エルフは街の人間に情けをかけず
次々と虐殺していった

街に国の部隊が応援に駆けつけた頃には
凄惨な光景の前にあのエルフがただ呆然と立っていた

その後、女は何故か抵抗することなく
国に連行されて処刑されることになった

しかし女が頑丈過ぎて
処刑ができなかった

国はこの女の処遇を
どうするか悩んでいた時……

いち早く目を付けたのが
悪徳な奴隷商上りの貴族だった

彼は女をもらい受けると
その場で言ったそう



久々の当たり引いたわ

ああっ
こりやたまらんなっ



おいっ、お前がいいなら
奴隷じゃなくて愛人として
世話してやるぞっ

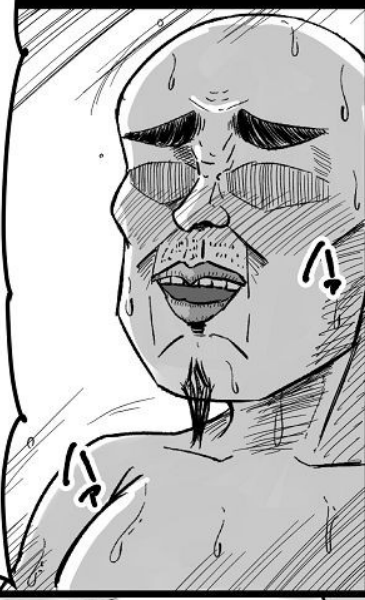


締まりも相当いいぞっ
やはり強い女は一味違うな



え…

どうだ？
その気になってきたか？



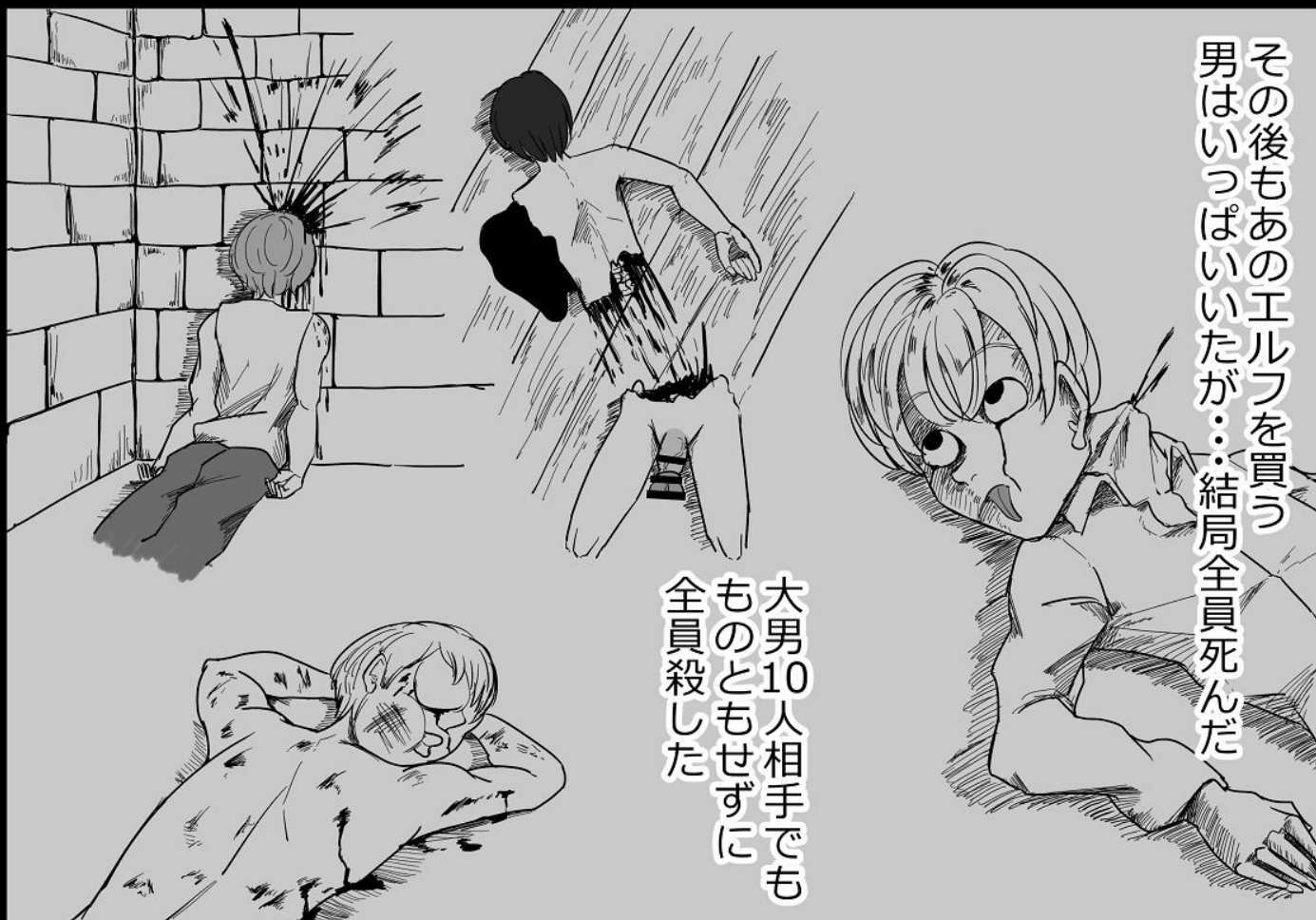
エルフの女を性奴隷として迎え入れようと企てていた男は
その願い虚しく、全身の骨をバキバキに折られて撲殺された

そして女はまた何も抵抗せずに捕らえられ、
再び奴隷として売りに出されたんだ



その後もあのエルフを買う男はいつぱいいいたが……結局全員死んだ

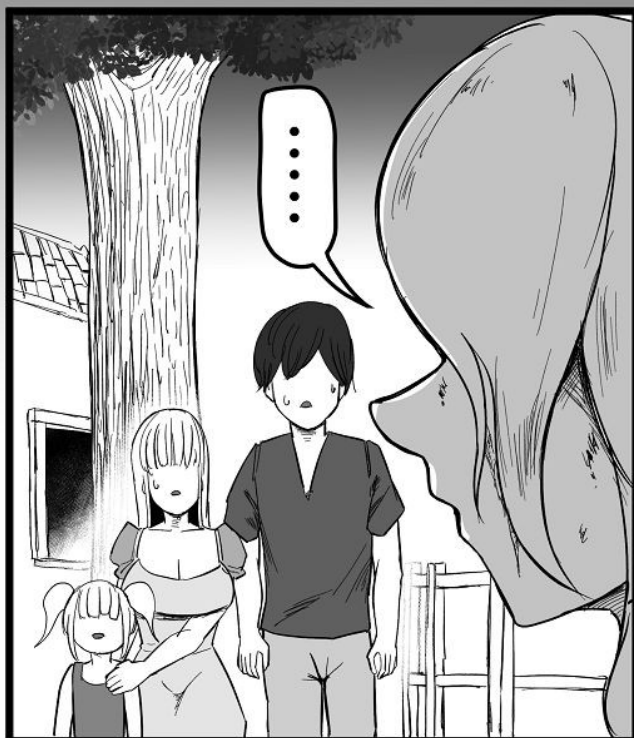
大男10人相手でも
ものともせず
全員殺した



奴隷として売り出される度に
その価値は下がり、「また殺した」
という認識が人々に広がっていった

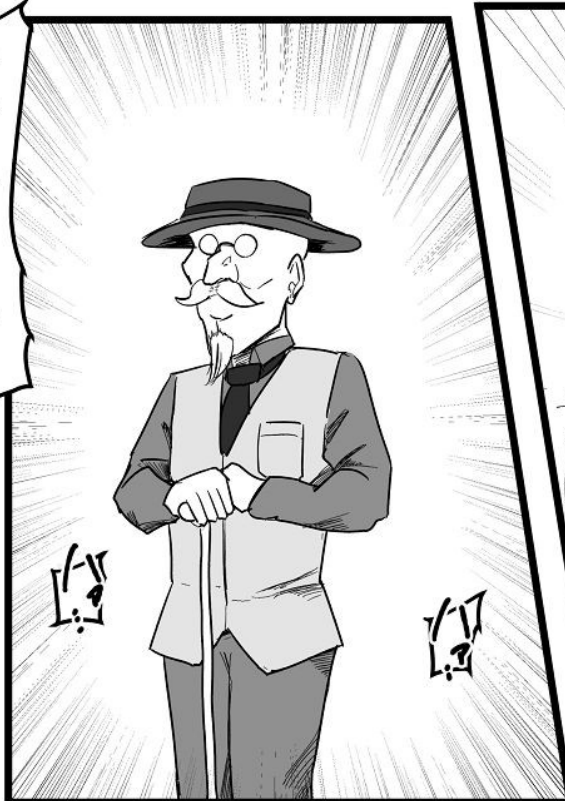


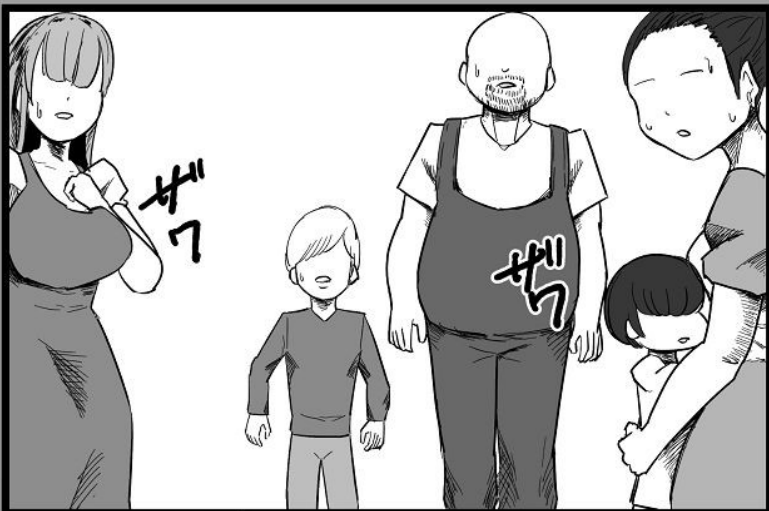
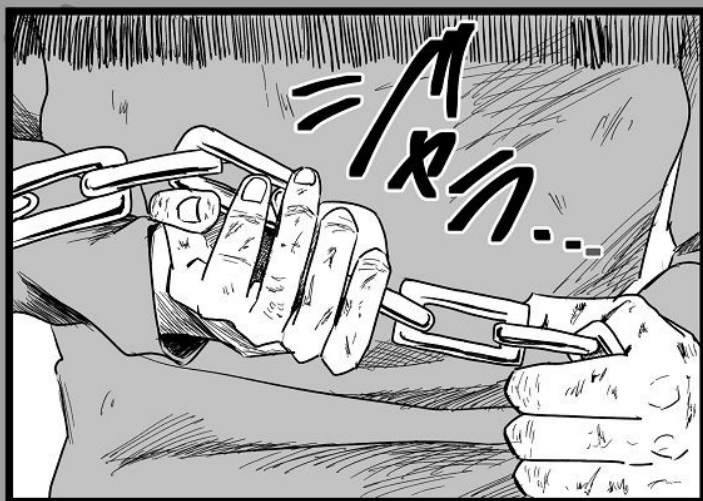
全身の傷、関わったら必ず死ぬという噂から、
【継ぎ接ぎの死神】
という二つ名がつくようになった





すいませーん!





ああ、たまに薪を
売りに来てる子ね

あの女に頼らなきゃいけないほど
生活に困窮してんのか...かわいそうに

あのがきは山奥の小屋に住んでた
死んだ両親の子供だったかな

うそだろ...
あのエルフを...
久々に見たぞ...

しかも子供じゃない
この辺ではあまり見かけないわよ

ザワ

ザワ

ドキ

ドキ

ドキ

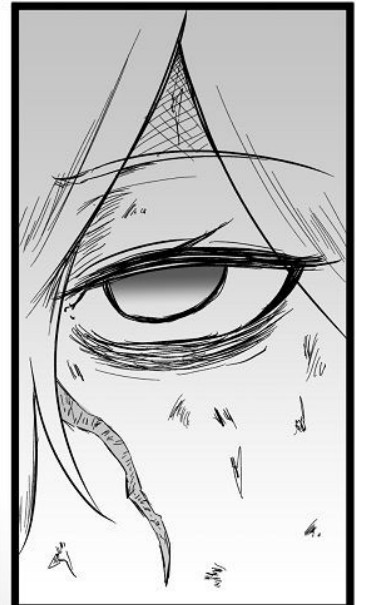
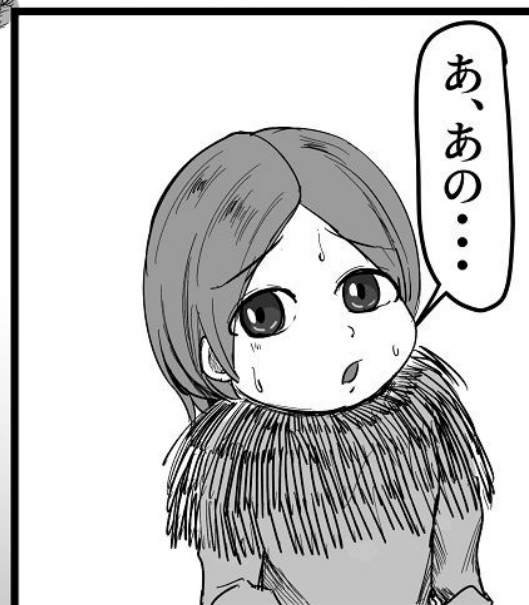
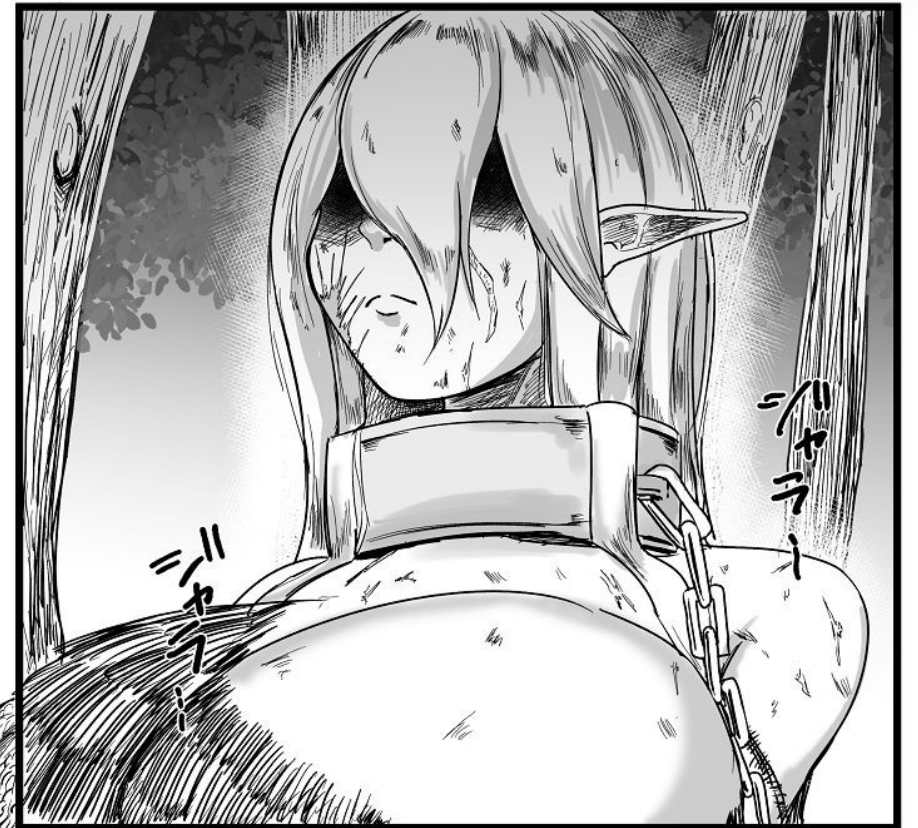
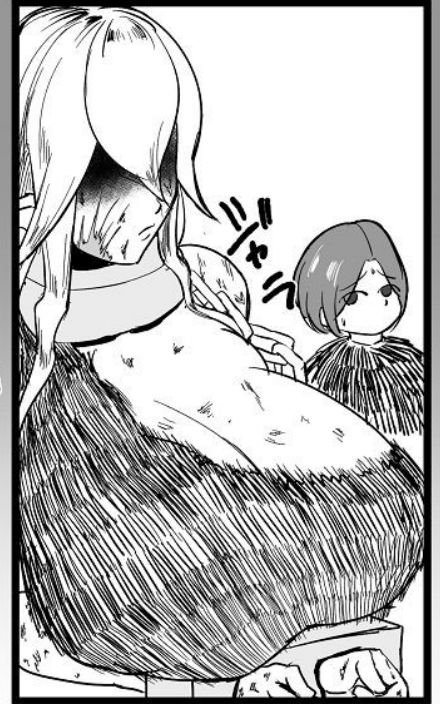
ドキ



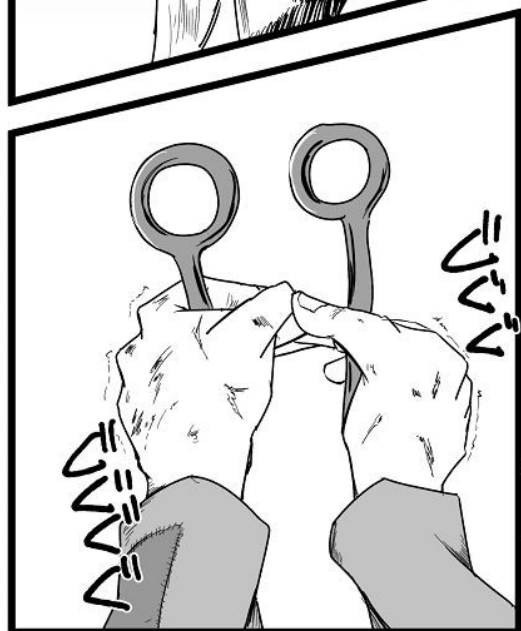
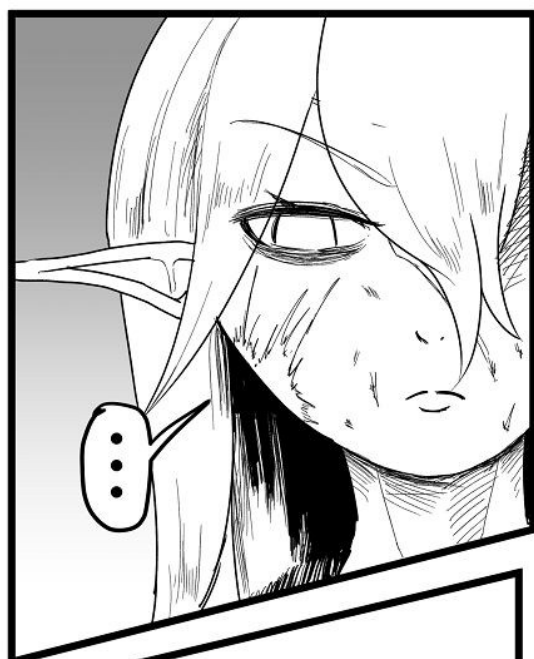
ぼ、僕の家ここからちよつと歩くんだ
山に住んでてさ...

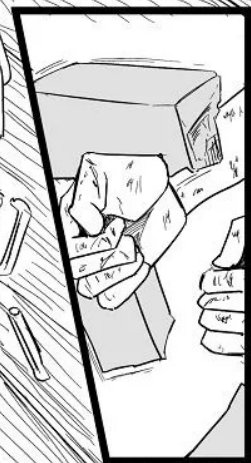
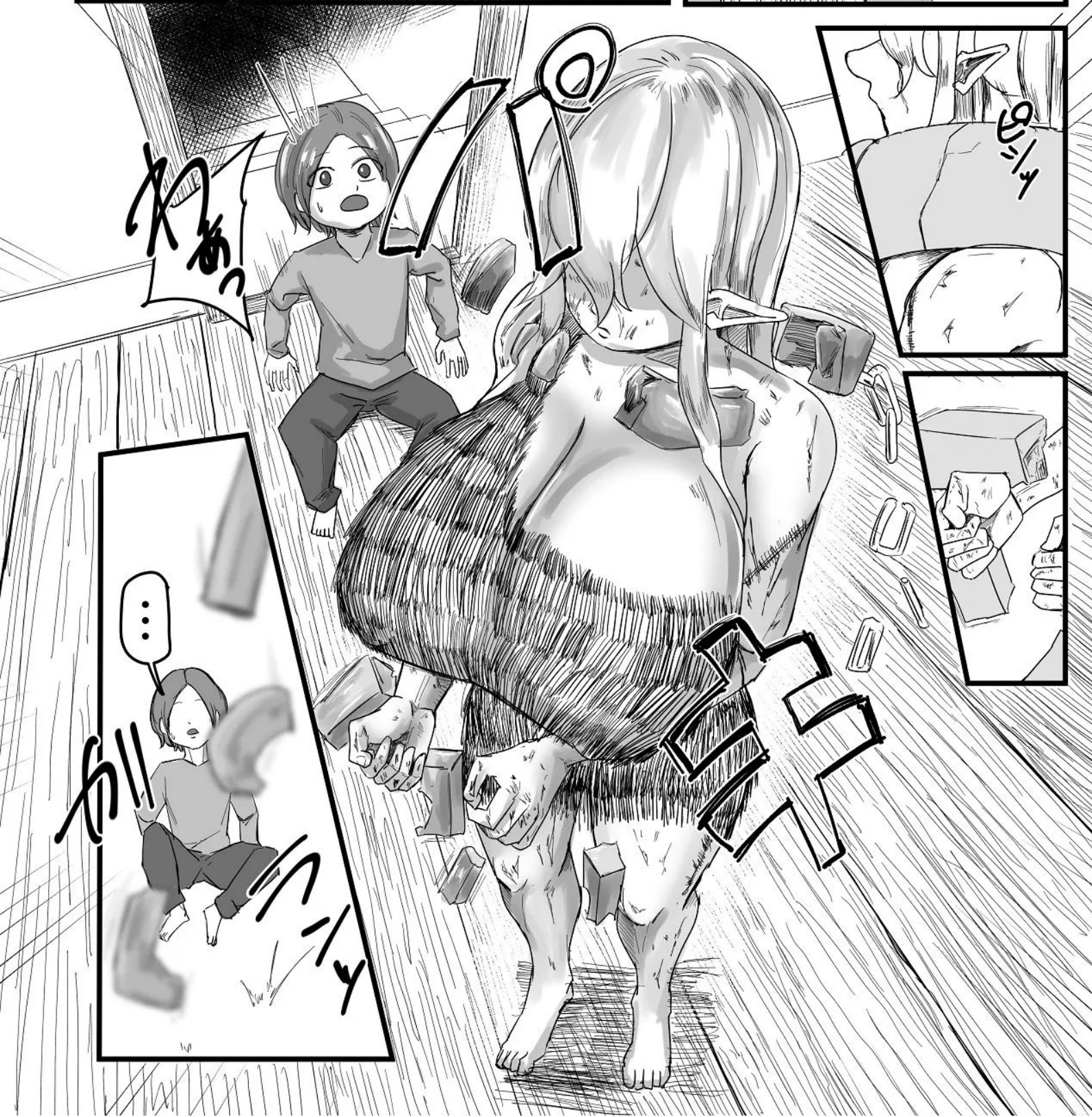
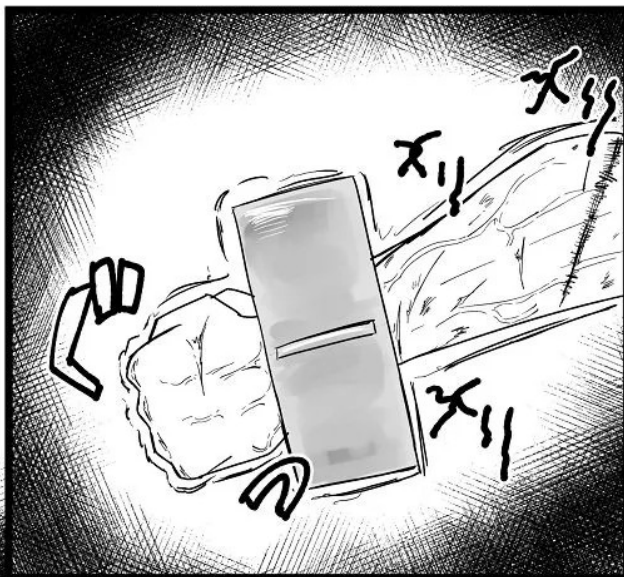
ご、ごめんね...

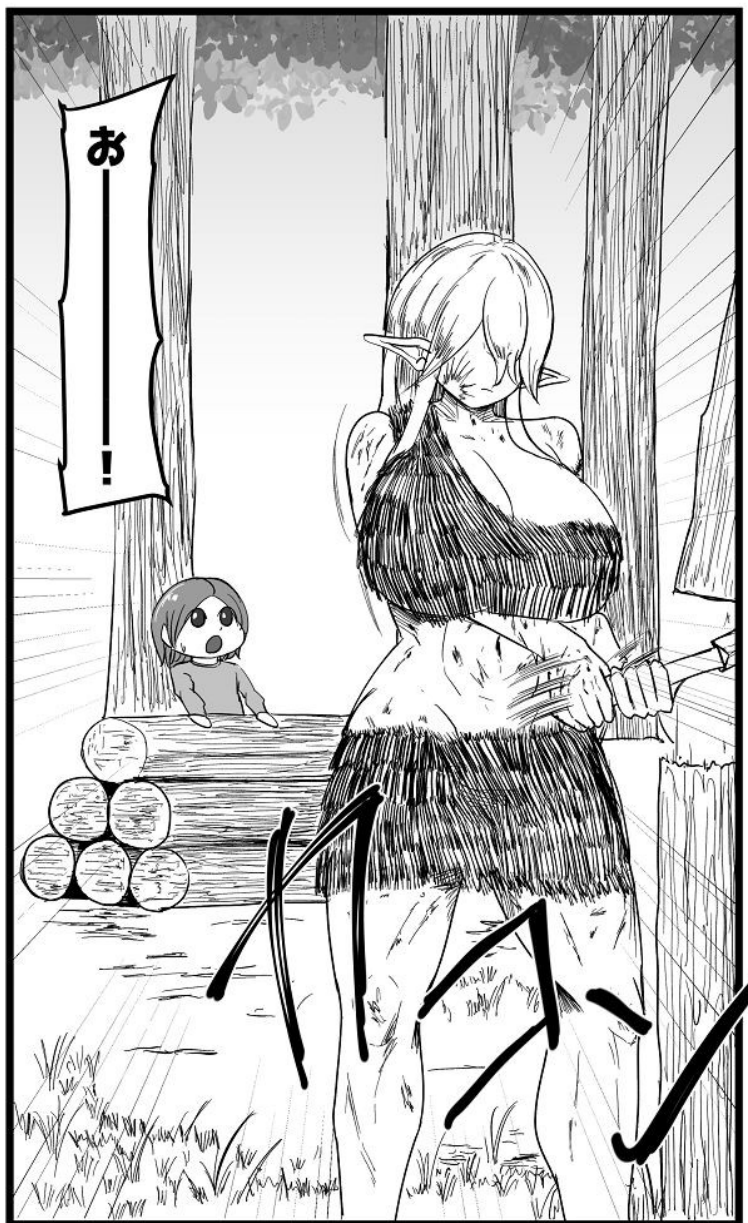
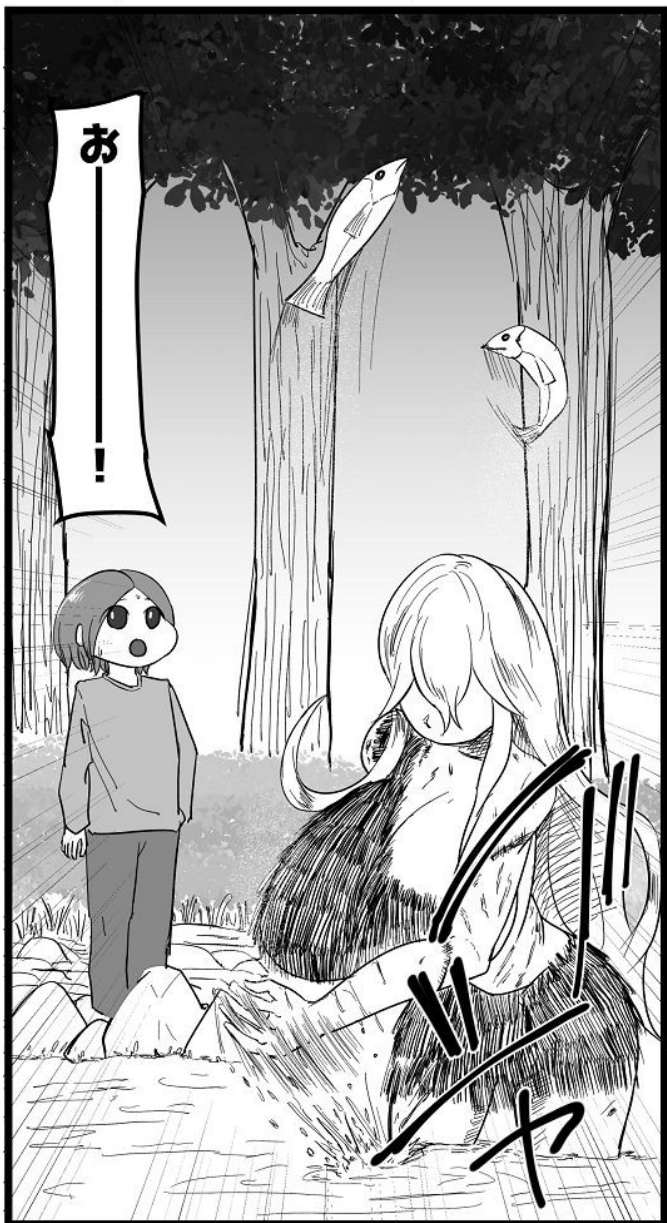
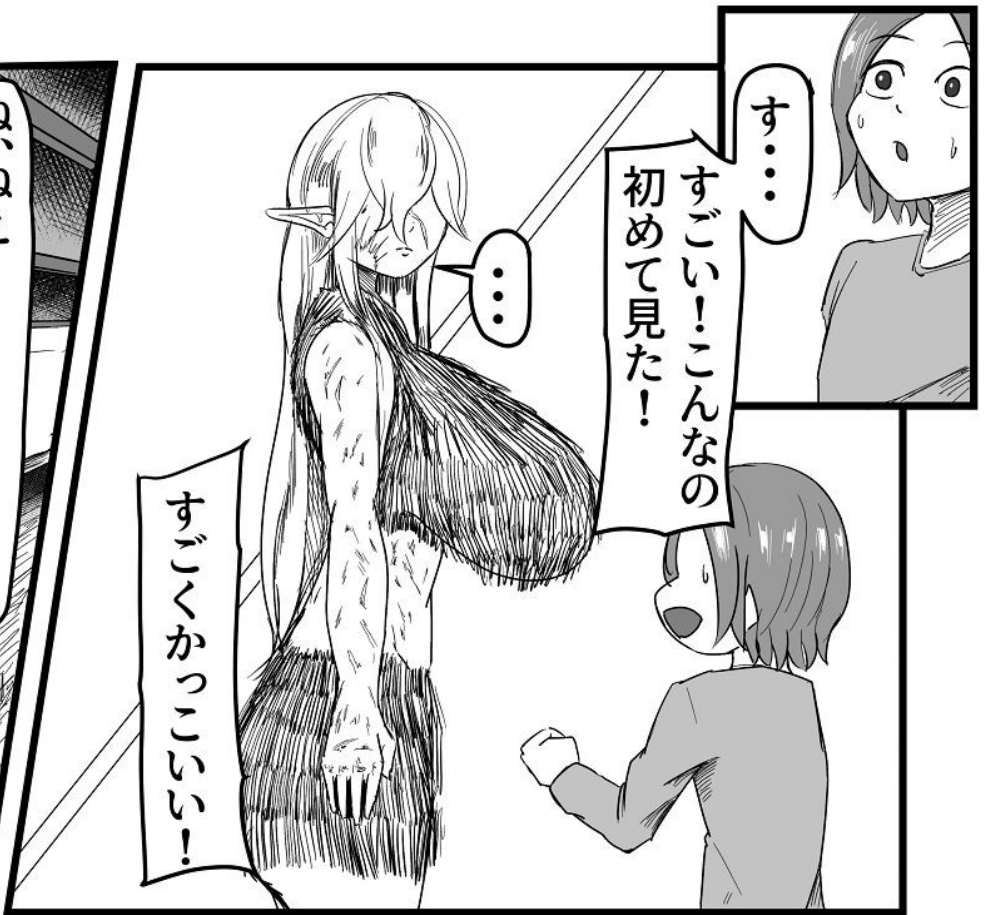
でもっ...今までの人みたいに
らっ、乱暴はしないから安心してねっ

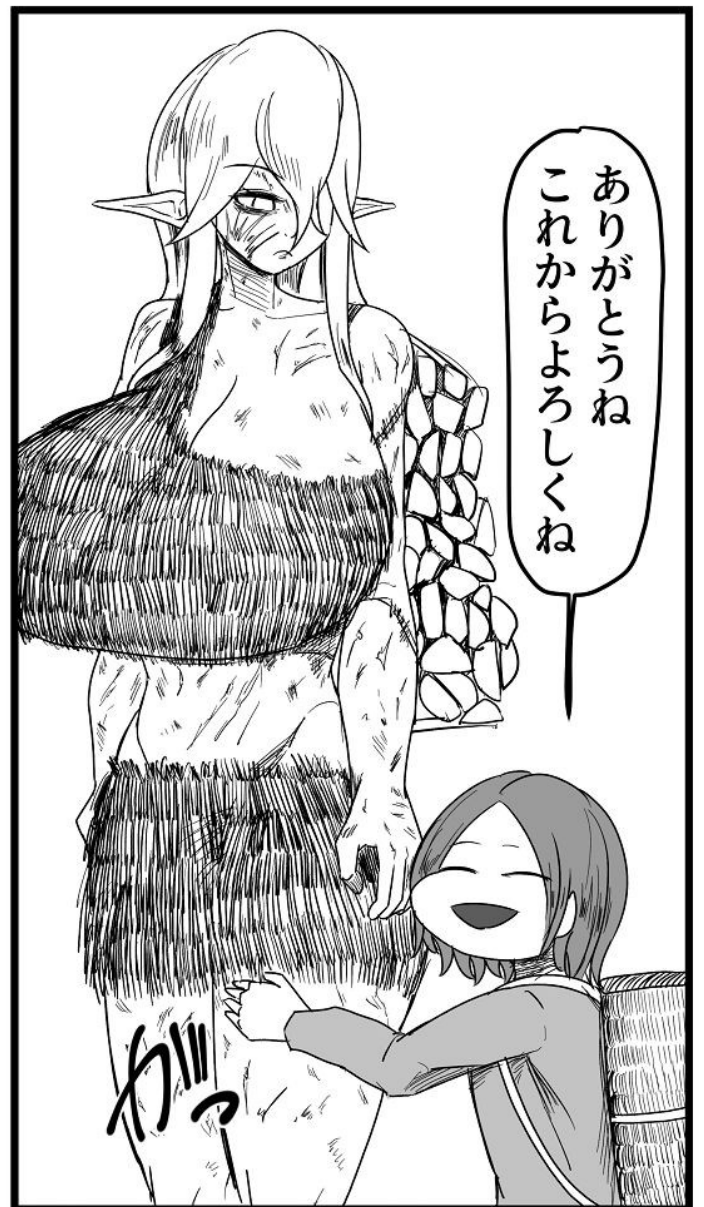




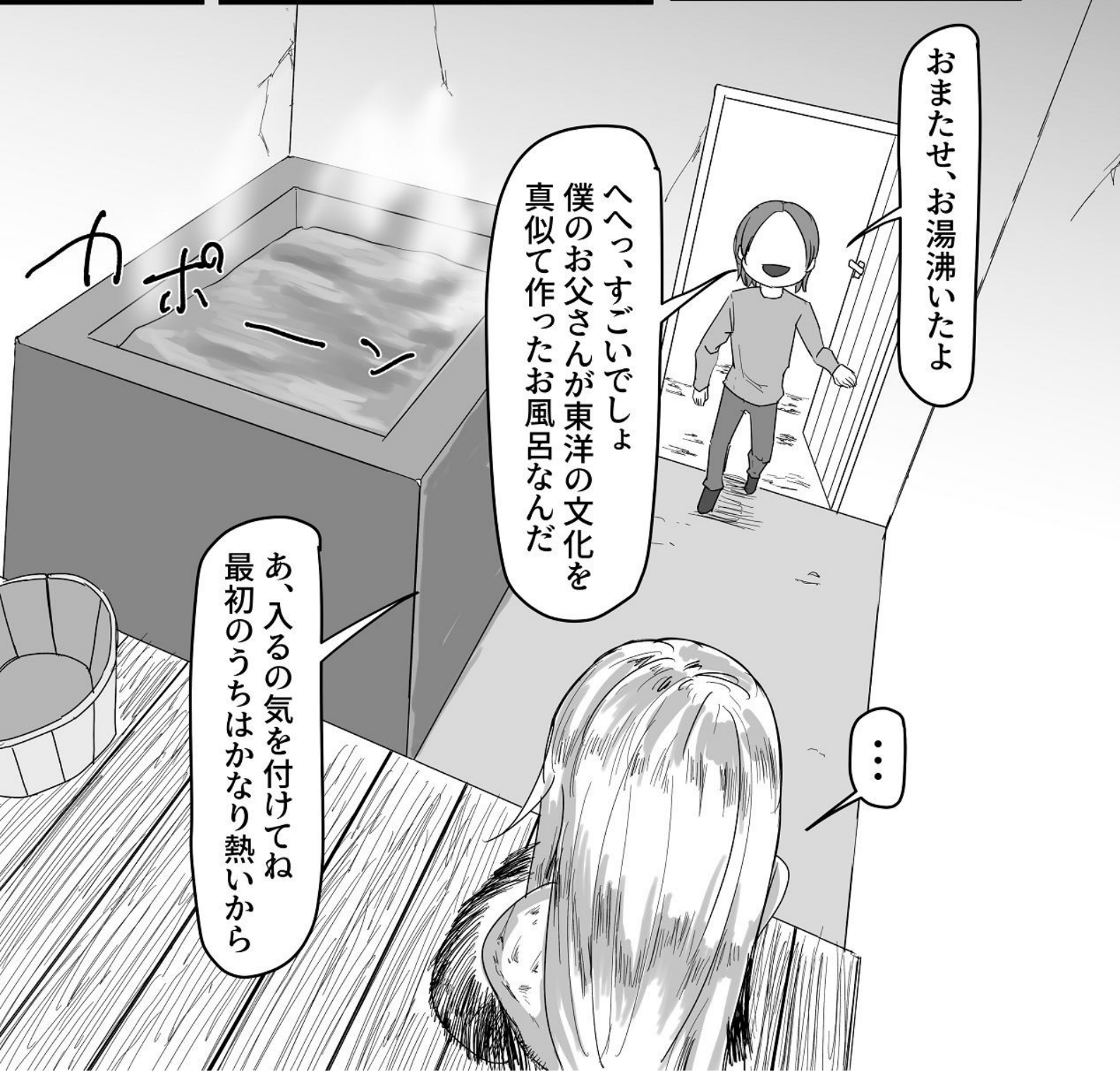








帰ってお風呂の
支度しよっか



おまたせ、お湯沸いたよ

へへっ、すごいでしょ
僕のお父さんが東洋の文化を
真似て作ったお風呂なんだ

あ、入るの気を付けてね
最初のうちはかなり熱いから

...

僕のお父さんはね
元S級の冒険者でさ

すっごく強くて
優しく……

わっ

バツ

……え

……

あ……

バツン

ドン

え……

とっ

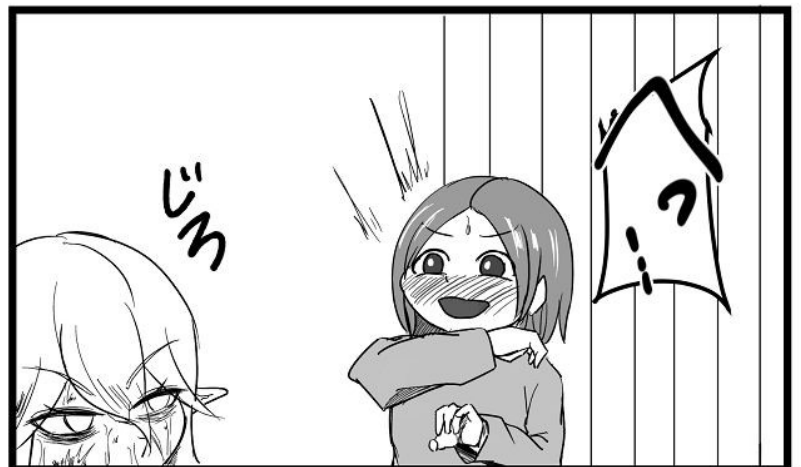
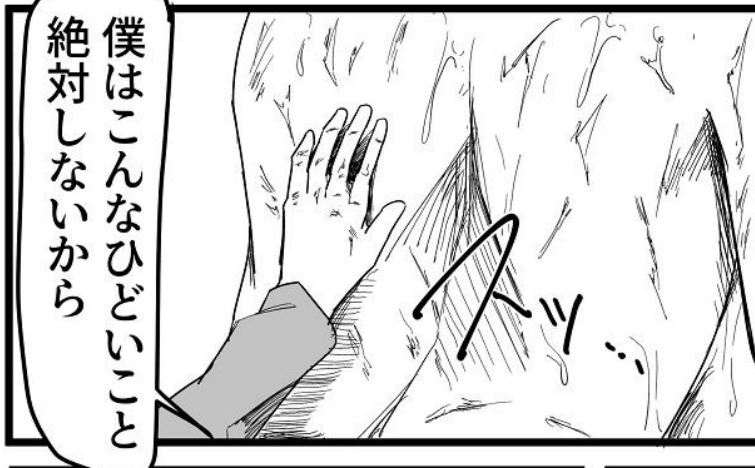
ぽんっ

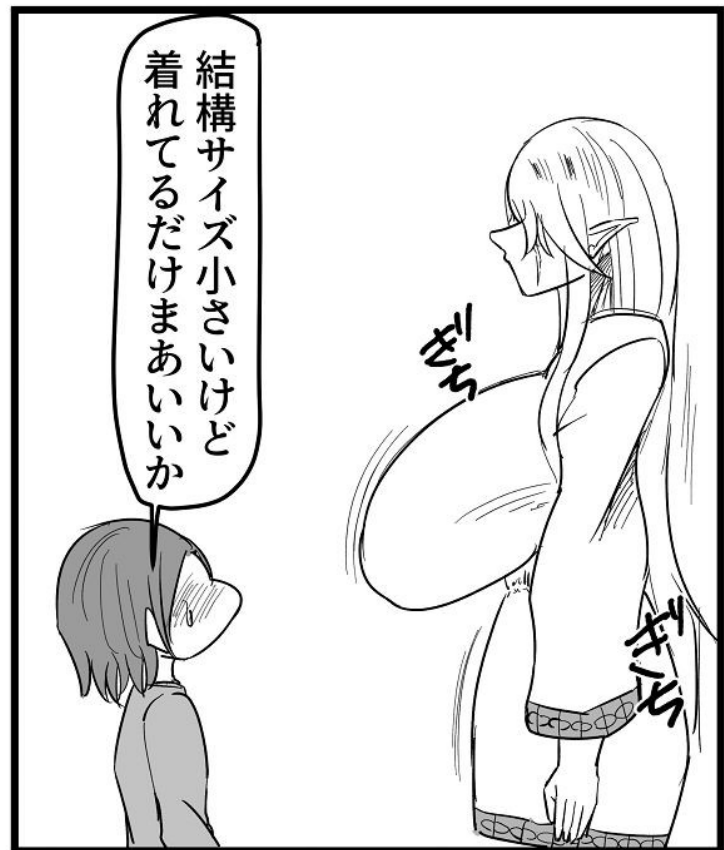
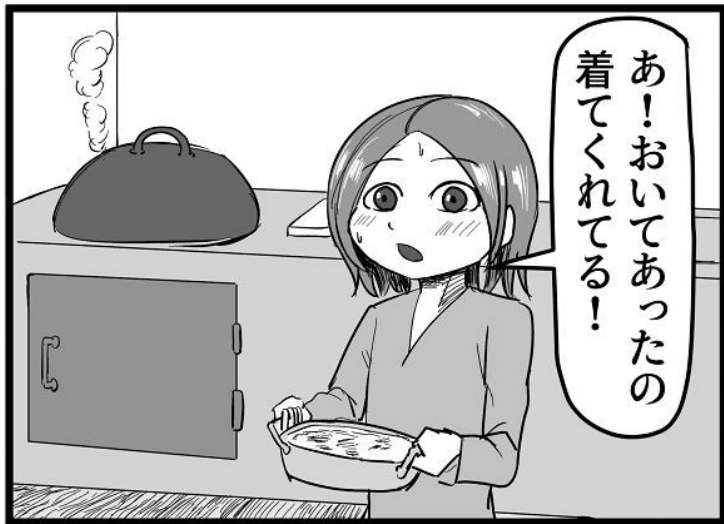
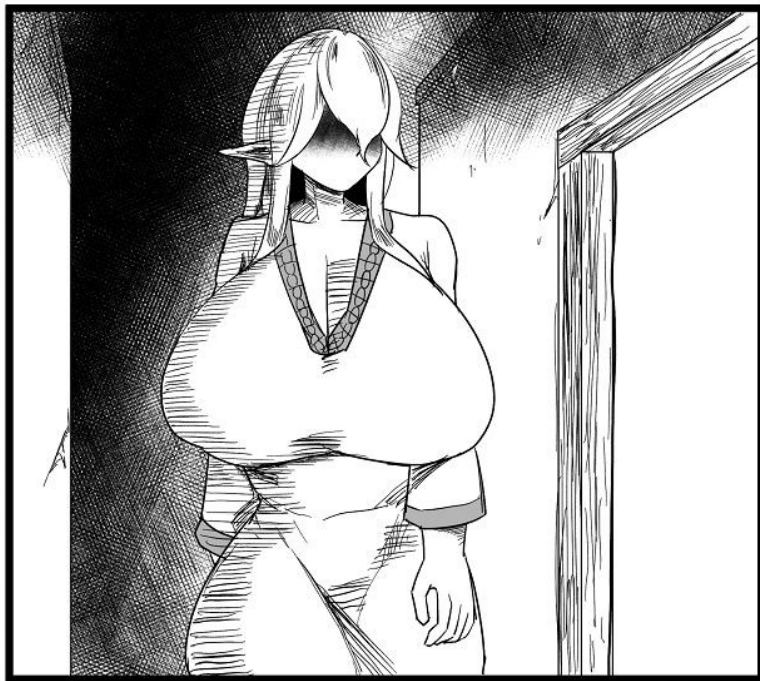
まっつ
き、急に脱がないでっ

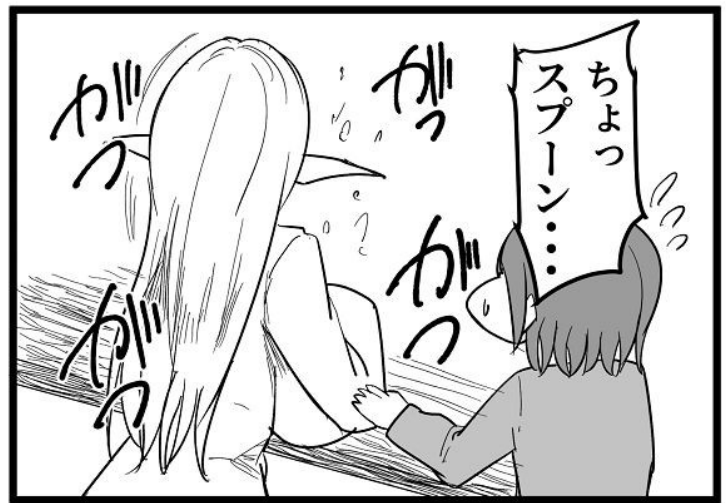
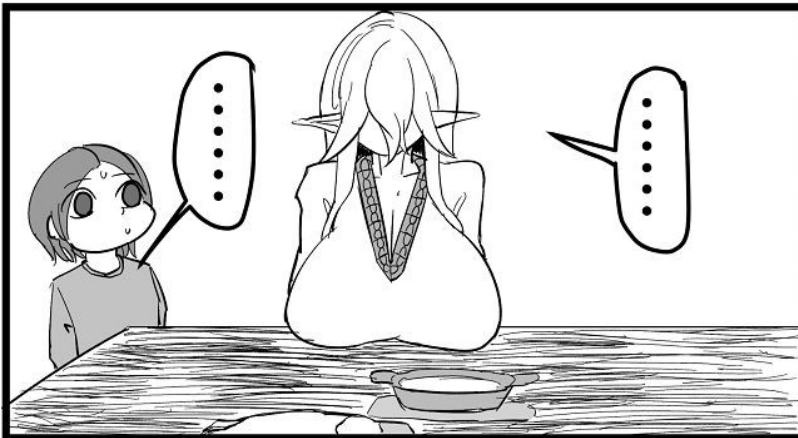
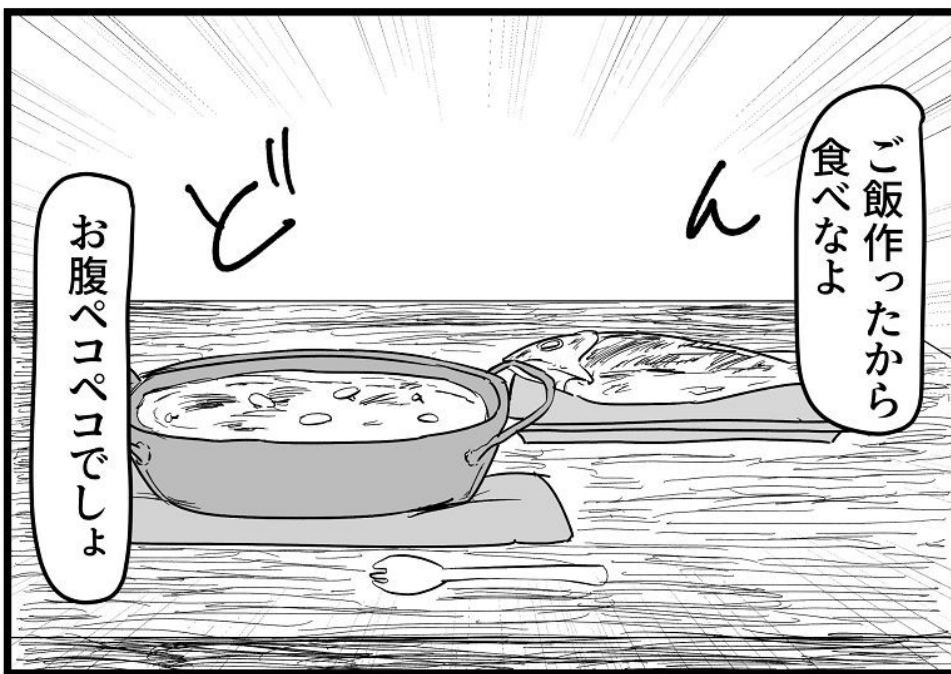
わっ、こっちに
近づいちゃダメっ

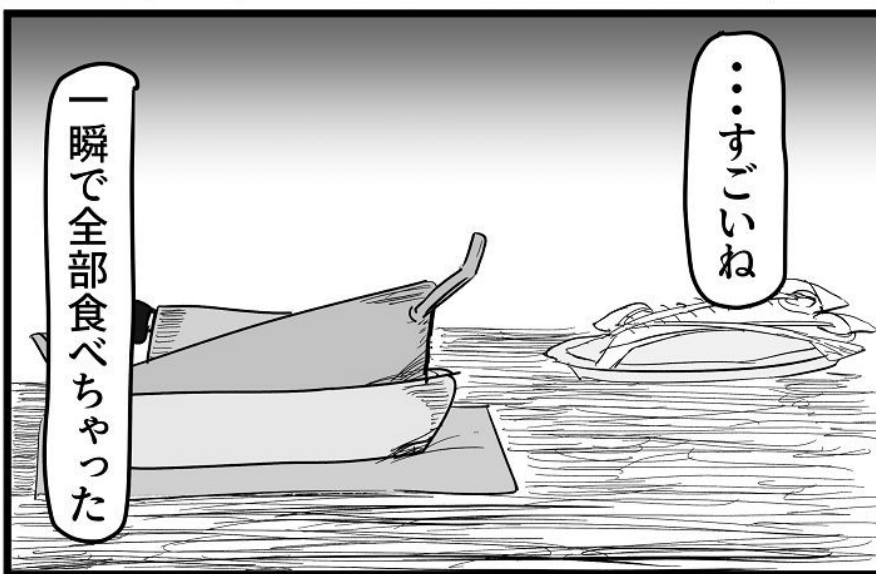
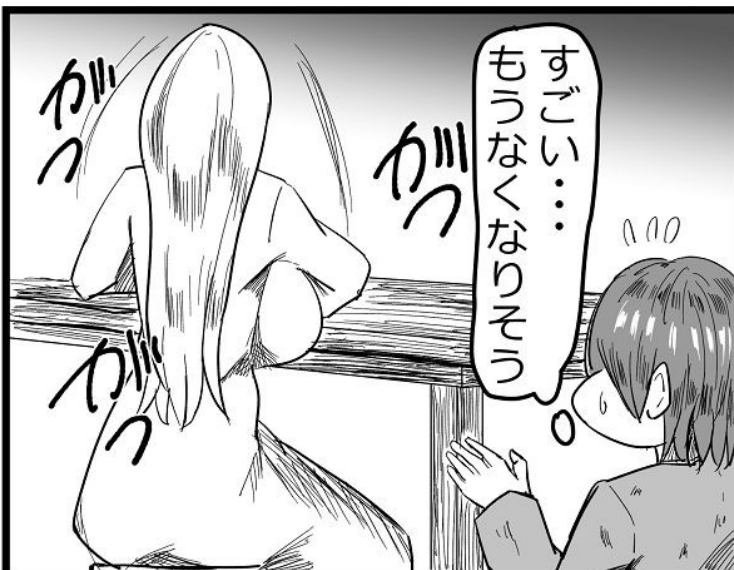
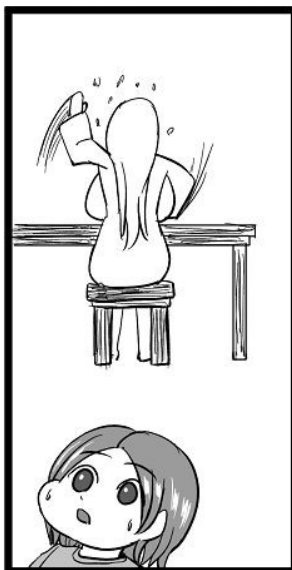
そ、そこ座って
後ろむいてっ

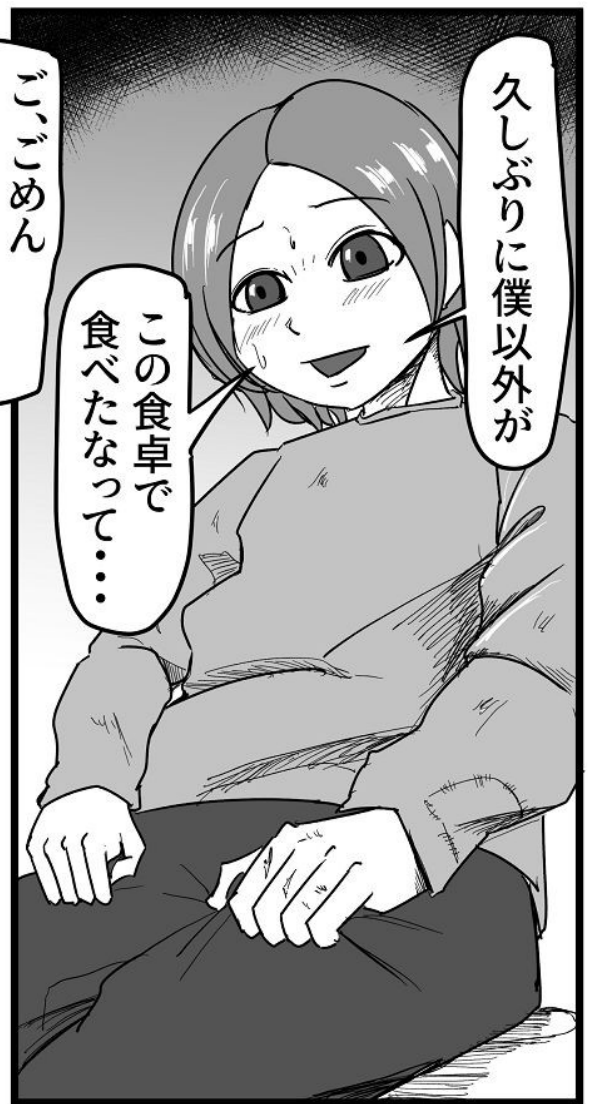












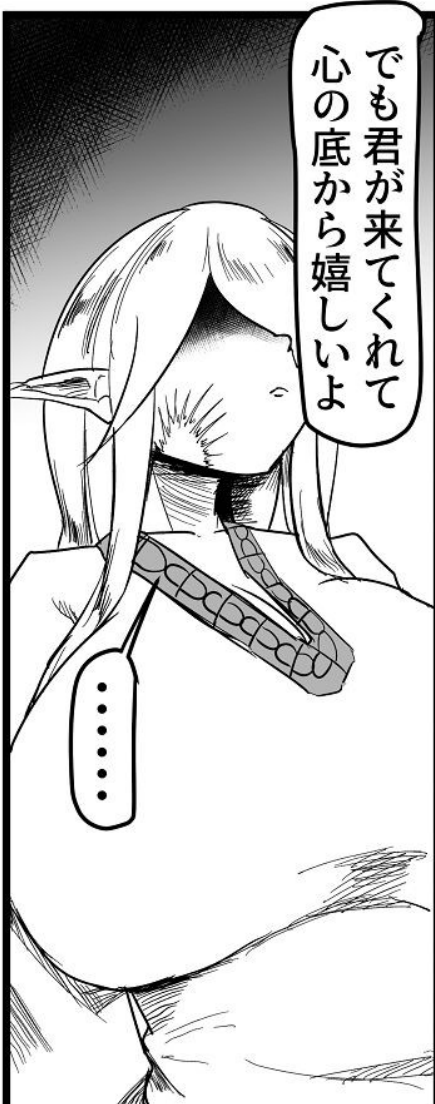
久しぶりに僕以外が

この食卓で
食べたなって...

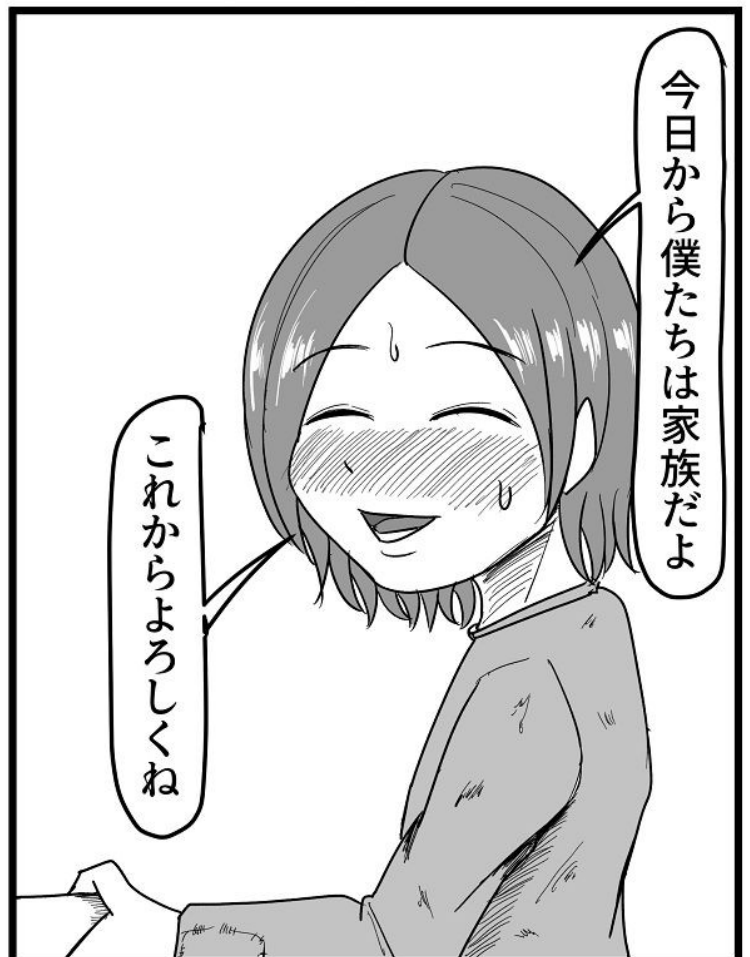


ご、ごめん
ちよつと変なこと
言っちゃった

お皿っ
片づけるねっ



でも君が来てくれて
心の底から嬉しいよ



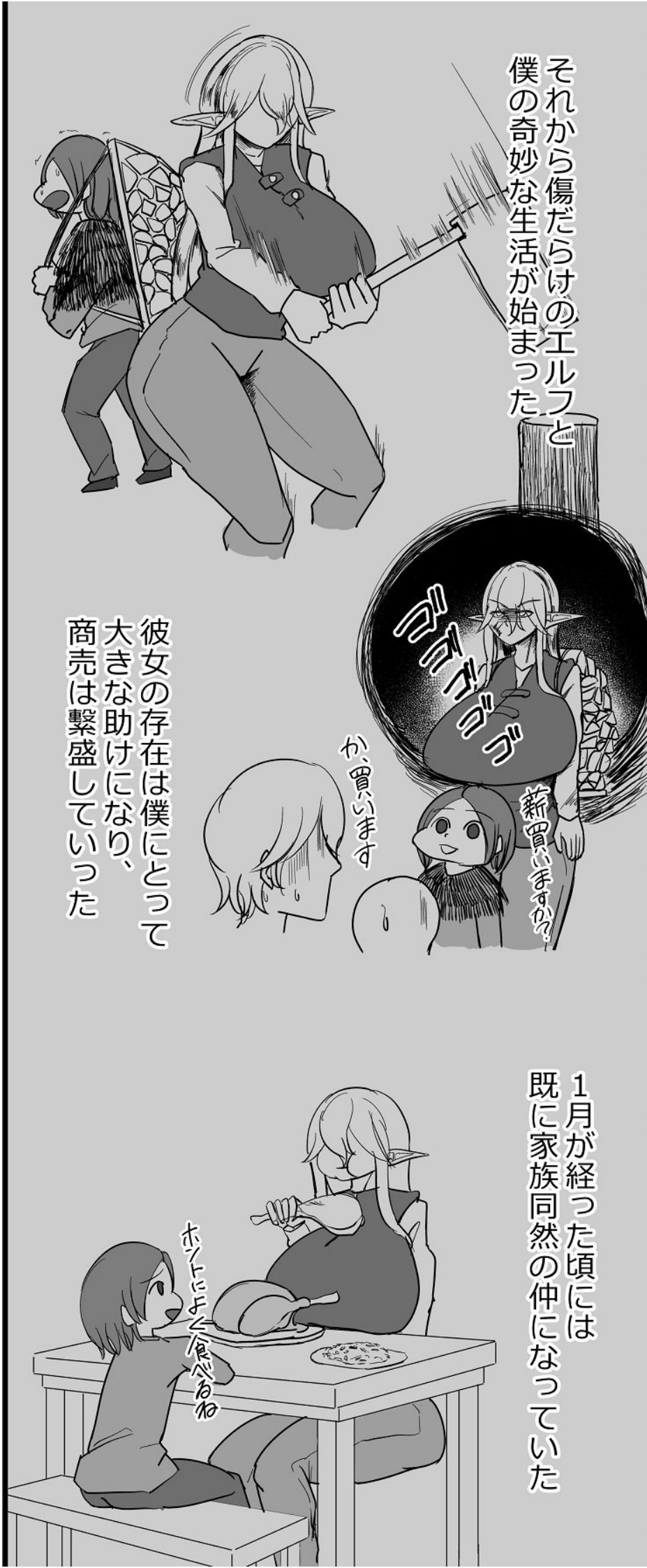
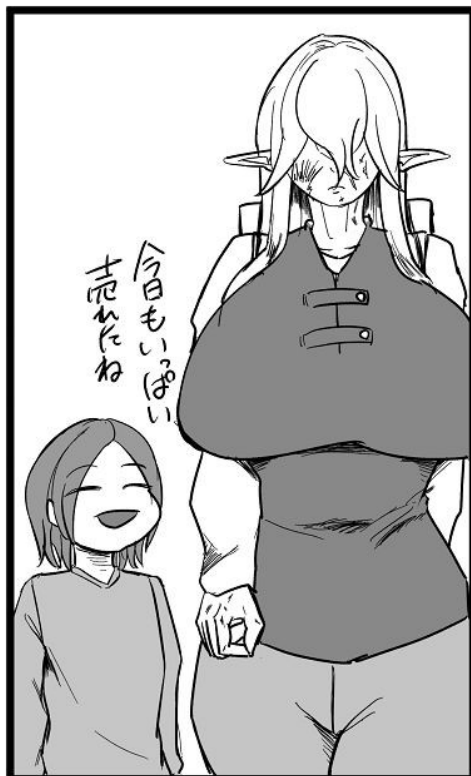
今日から僕たちは家族だよ

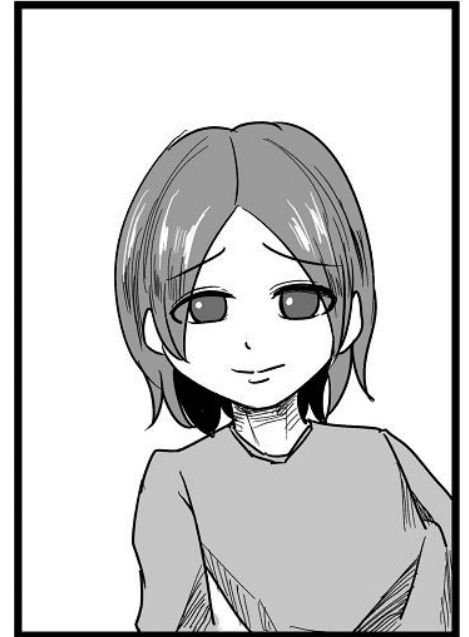
これからよろしくね



とりあえず
服探さないとだねっ

しばらくはお父さん
のお下がりでご我慢してね







お父さんとお母さんがいたころは
すごく幸せだった
元冒険者の頼りになるお父さんと
料理がおいしくて優しいお母さん



いつまでも続けばいいのになって思ってた



でもある日お母さんが倒れた



お医者さんの話だと
お母さんの病気は
いっばいお金が
必要だっとなって



お父さんは
また冒険者になった
すまないな
エリン...



お父さんが留守の間
僕がお母さんを看病することになったんだ
だがお前なら大丈夫だ
がんばってお母さん
守ってやってくれ

最初はとても大変だった

シーツを変えたりご飯作ったり洗濯したりでさ

そんな状況を知ってか
お母さんは弱ってても

おしいね

ほんとい

色々褒めてくれたり
励ましたりしてくれたり
励ましたりしてくれたり
励ましたりしてくれたり

でも全然身体は
よくななくなつて

それでも看病して

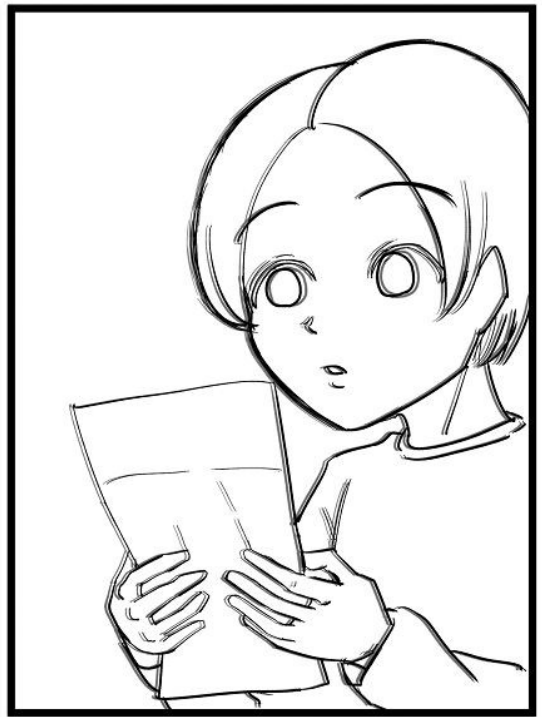
そんな生活の繰り返し
をしてたらさ

ふと思ひんだ

またあの頃みたいに
家族で過ごしたいって…

お父さんが冒険者になって
半年が経ったある日

覚えのない手紙が
届いて…



その手紙にはね…

お父さんが死んだって
報せが書いてて…



それからも…お母さん…
看…病…

がんばっ…たけど



お…母…さん

死…んじゃ…っ…



僕が…

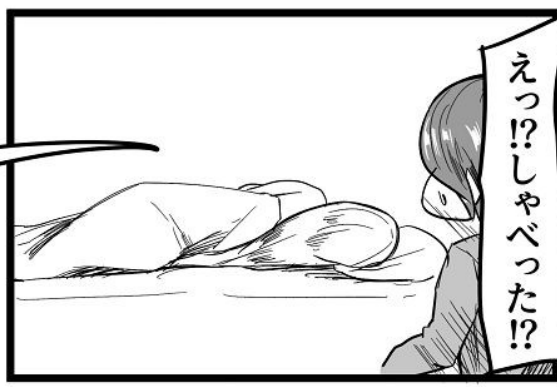
なん…も…力に…
なれなく…って…



そんなに自分を
責めないの



えっ!?しゃべった!?



そんな事いちいち
引きずっても
意味ないから



まあ、気持ち…わかるけどね
アンタまだ子供だし

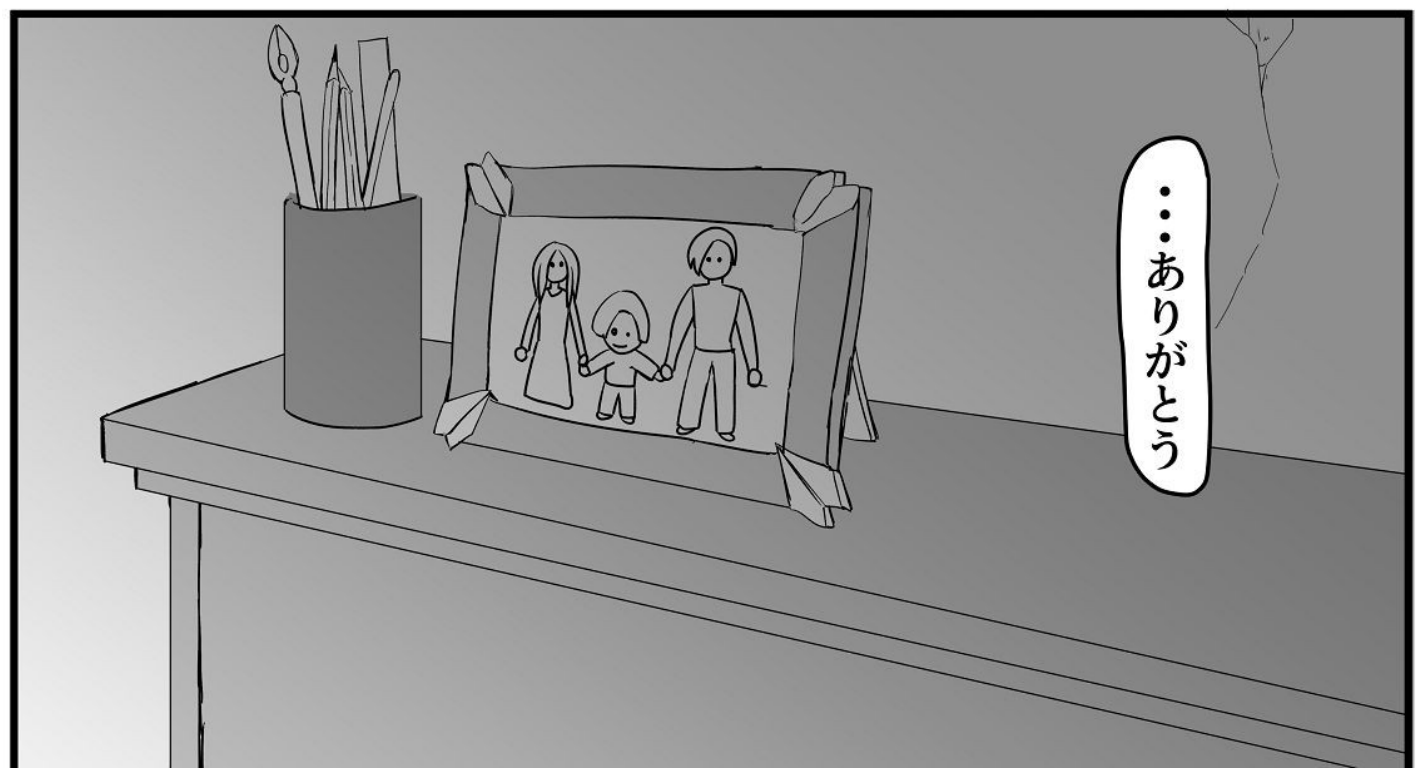
でもそんな気分を
紛らわせたかったから
私を買ったんでしょ



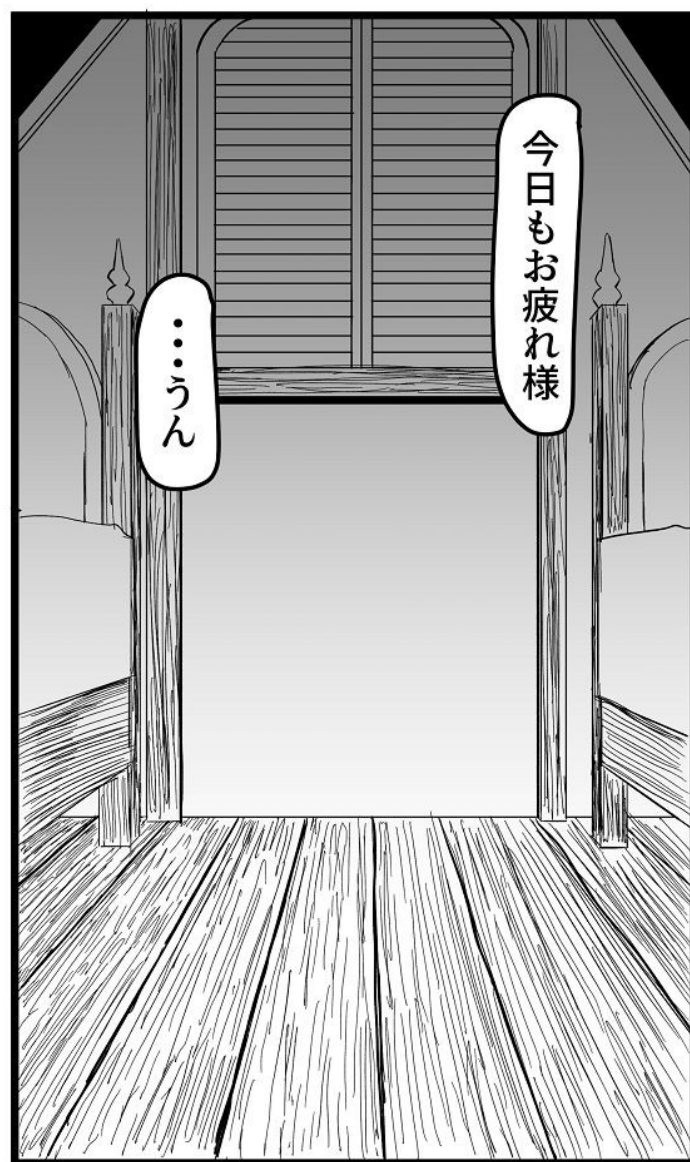
だからもっと
私を頼りなさい

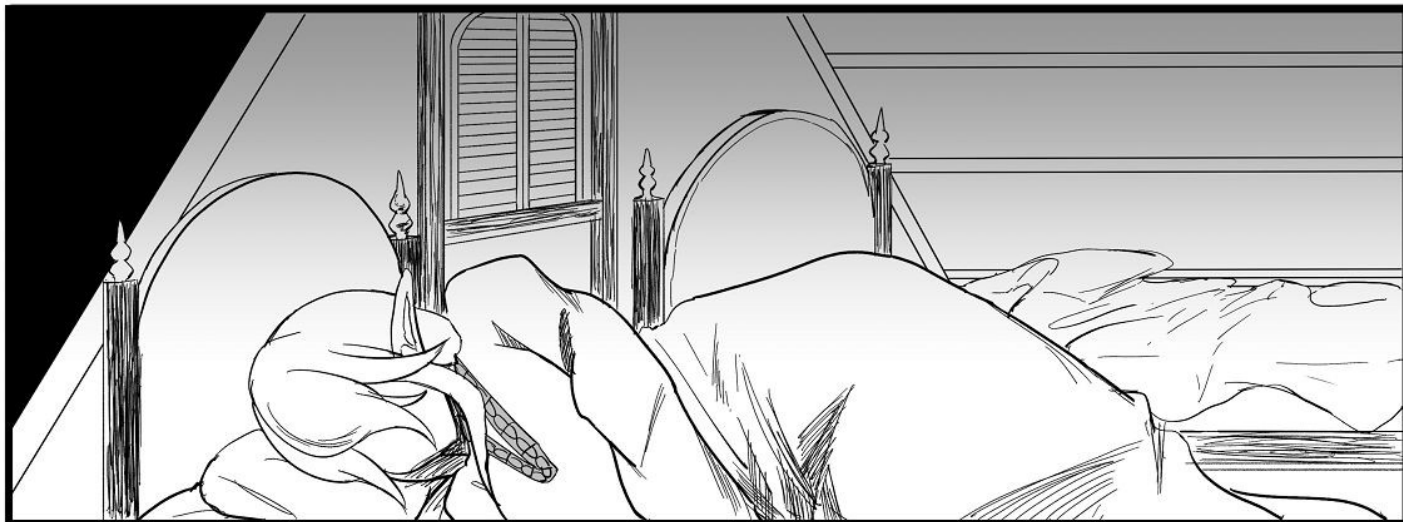
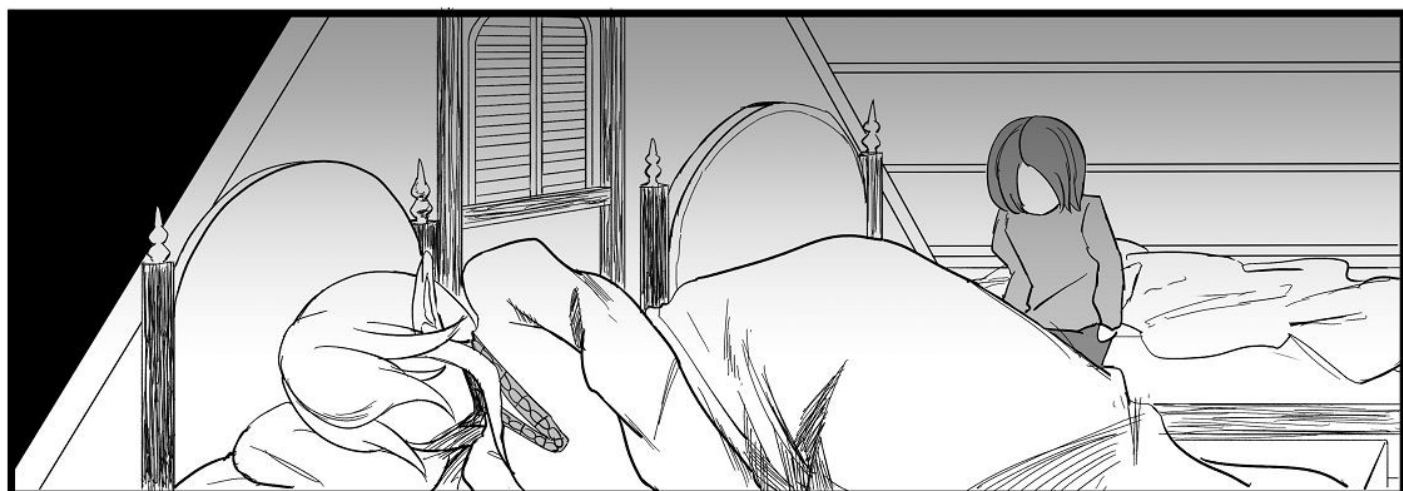
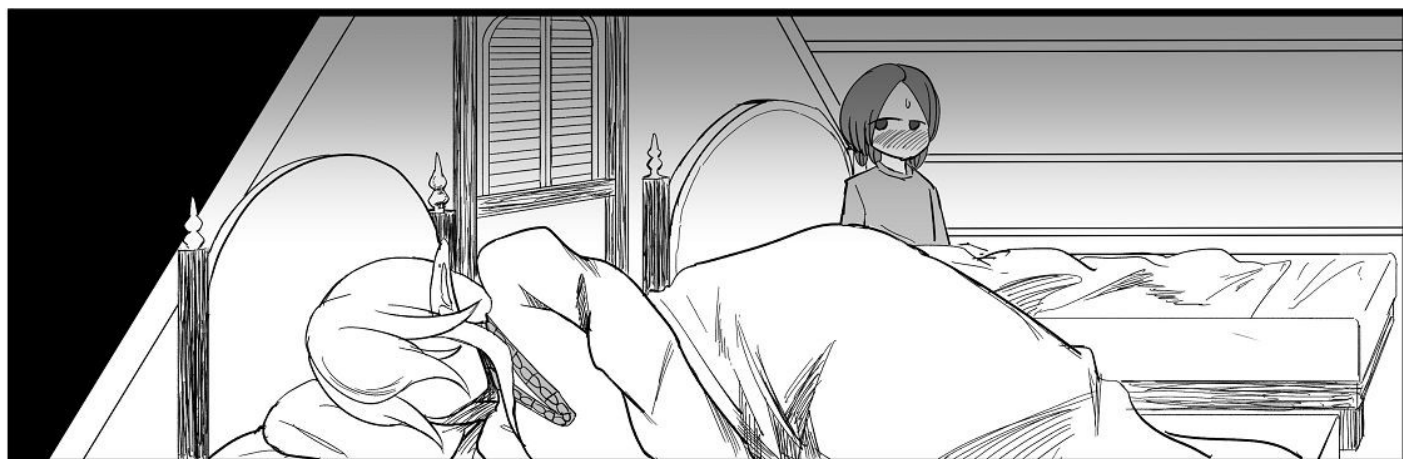
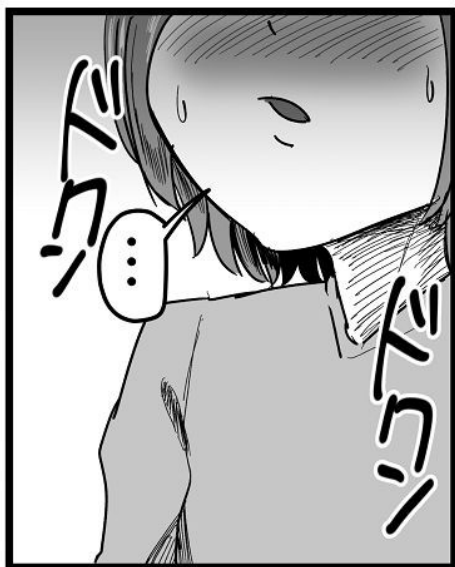


一人で抱え込まない



…ありがとう





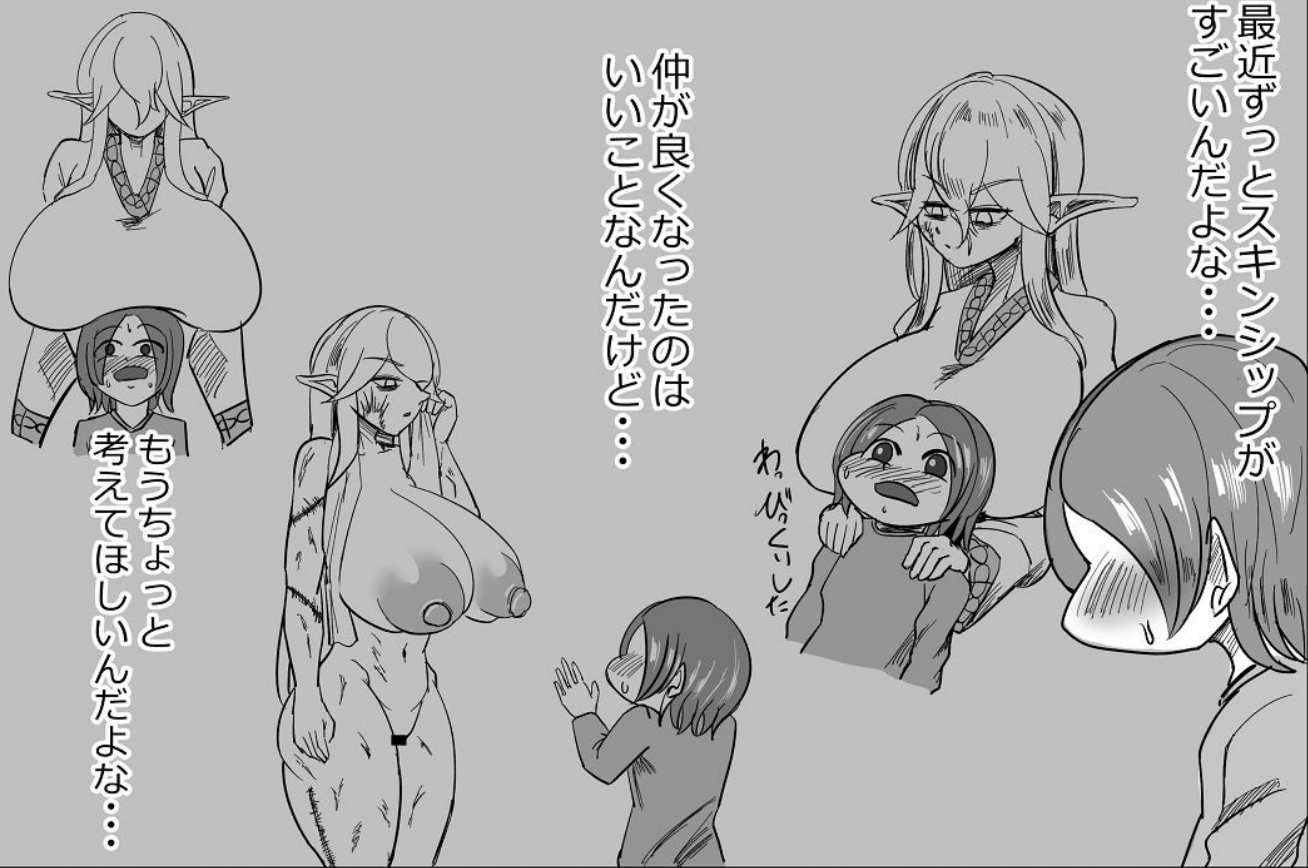


最近ずっとスキニシップが
すごいんだよな...

仲が良くなったのは
いいことなんだけど...

わ、びっくりした

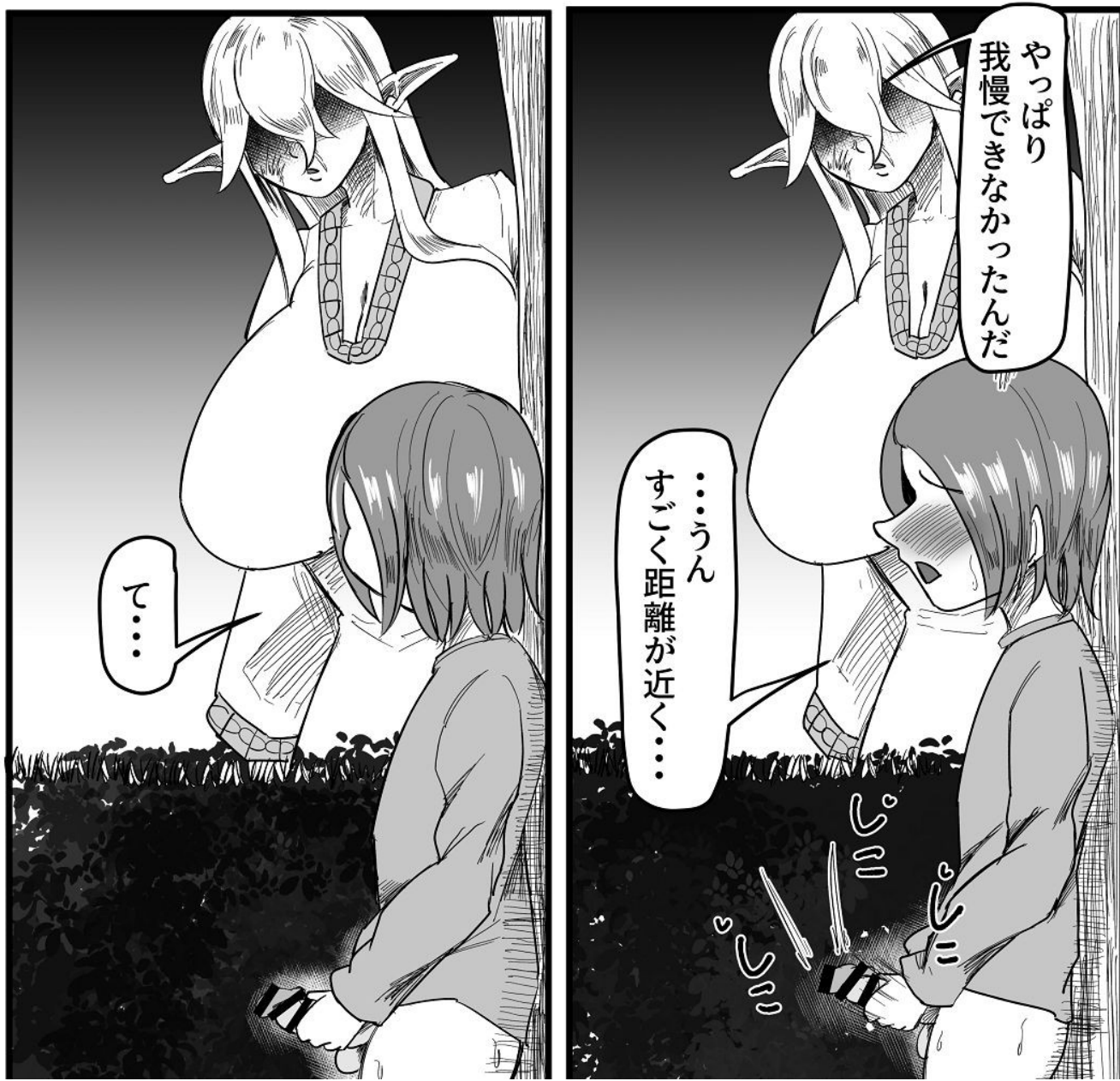
もうちょっと
考えてほしいんだよな...

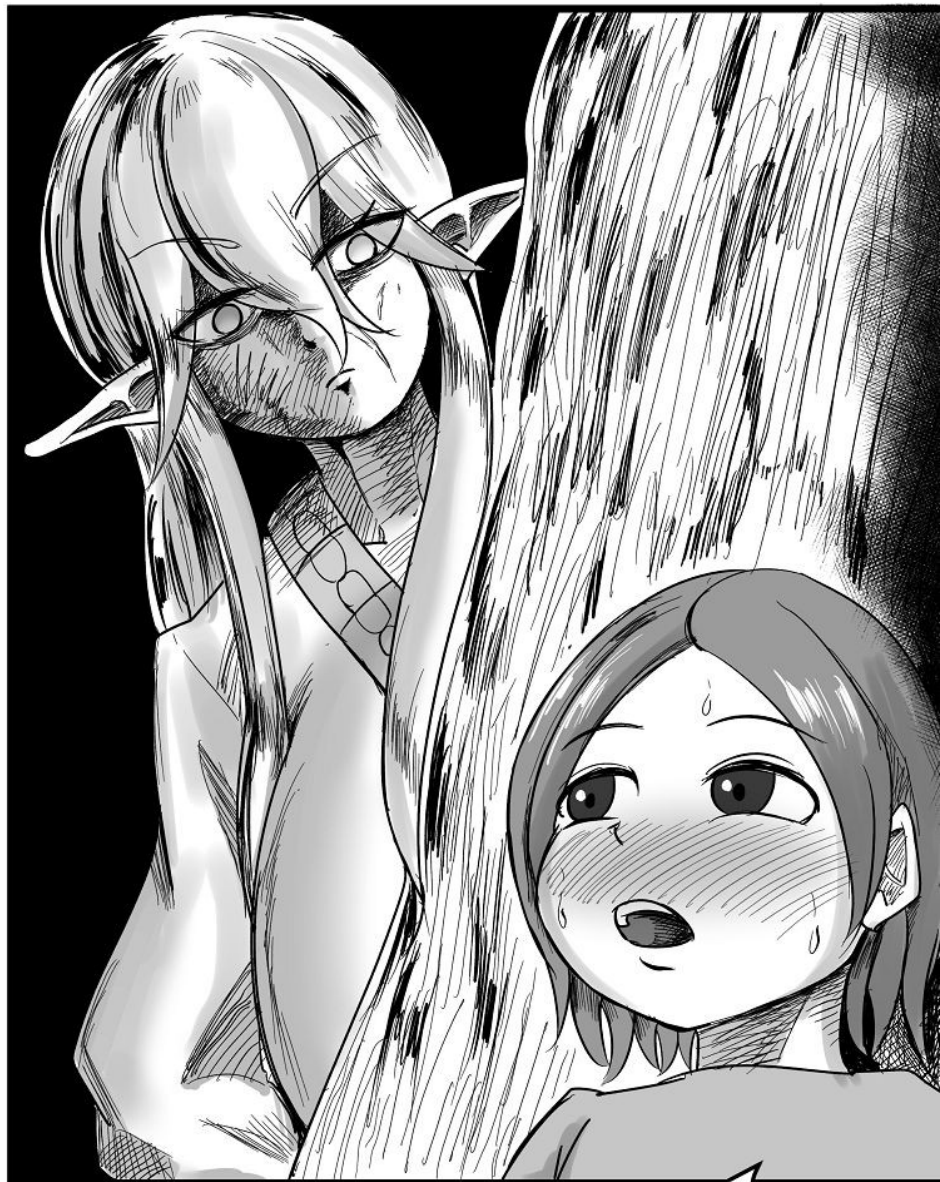


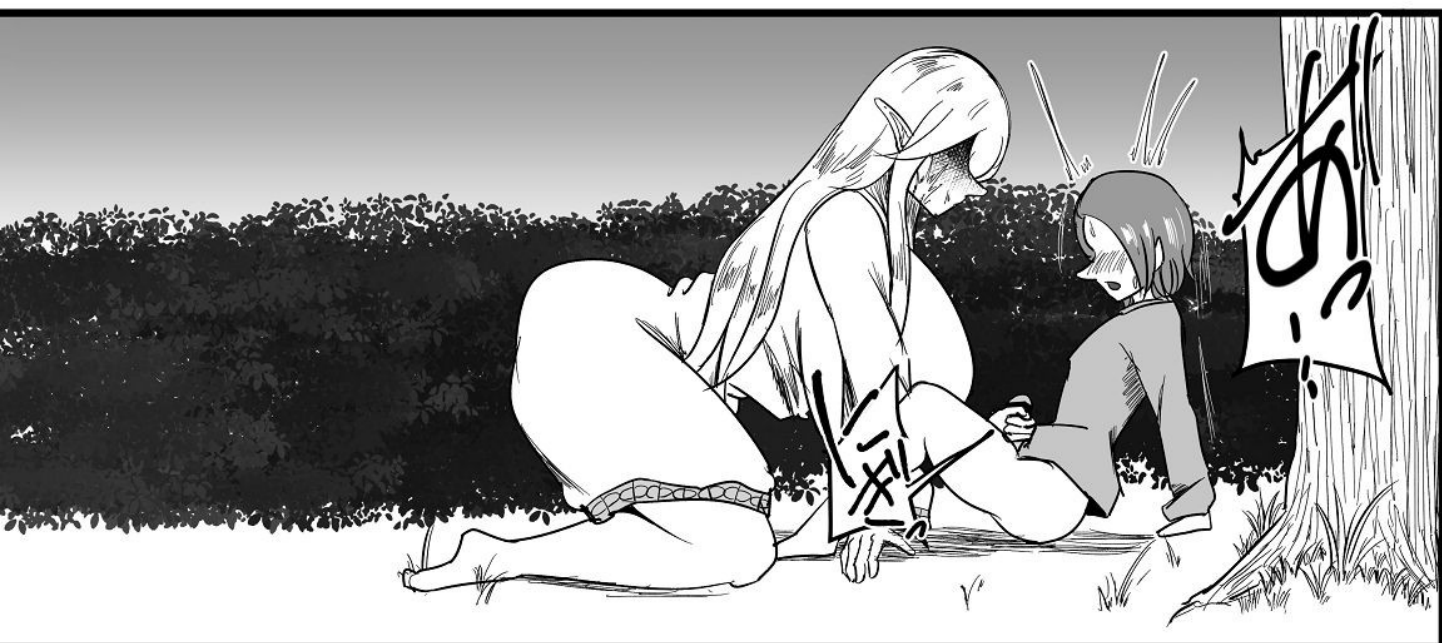
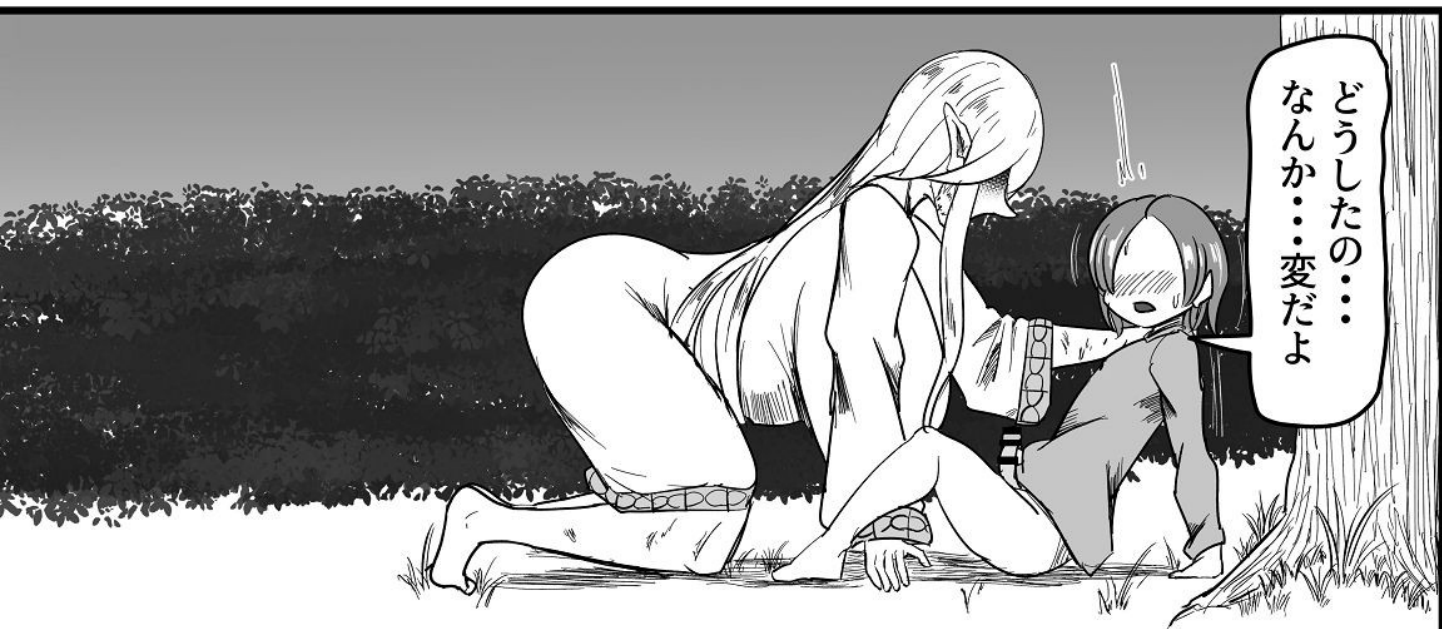
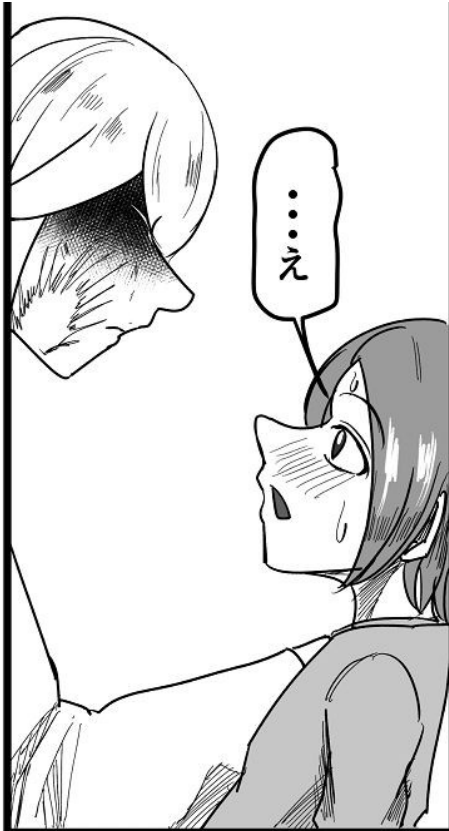
やっぱり
我慢できなかったんだ

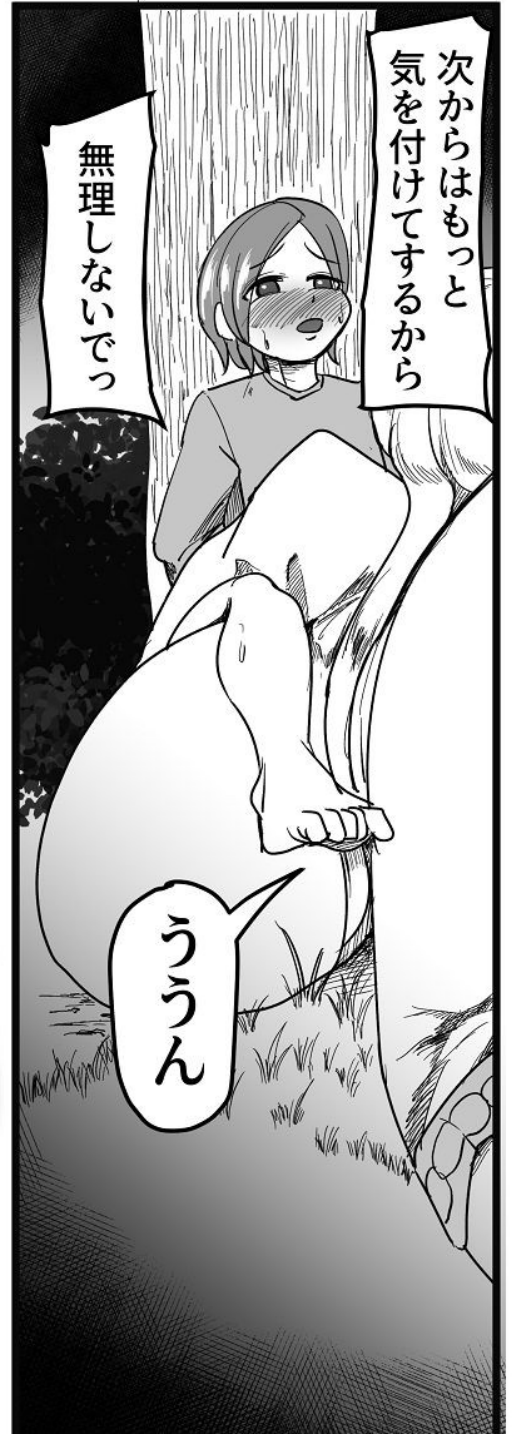
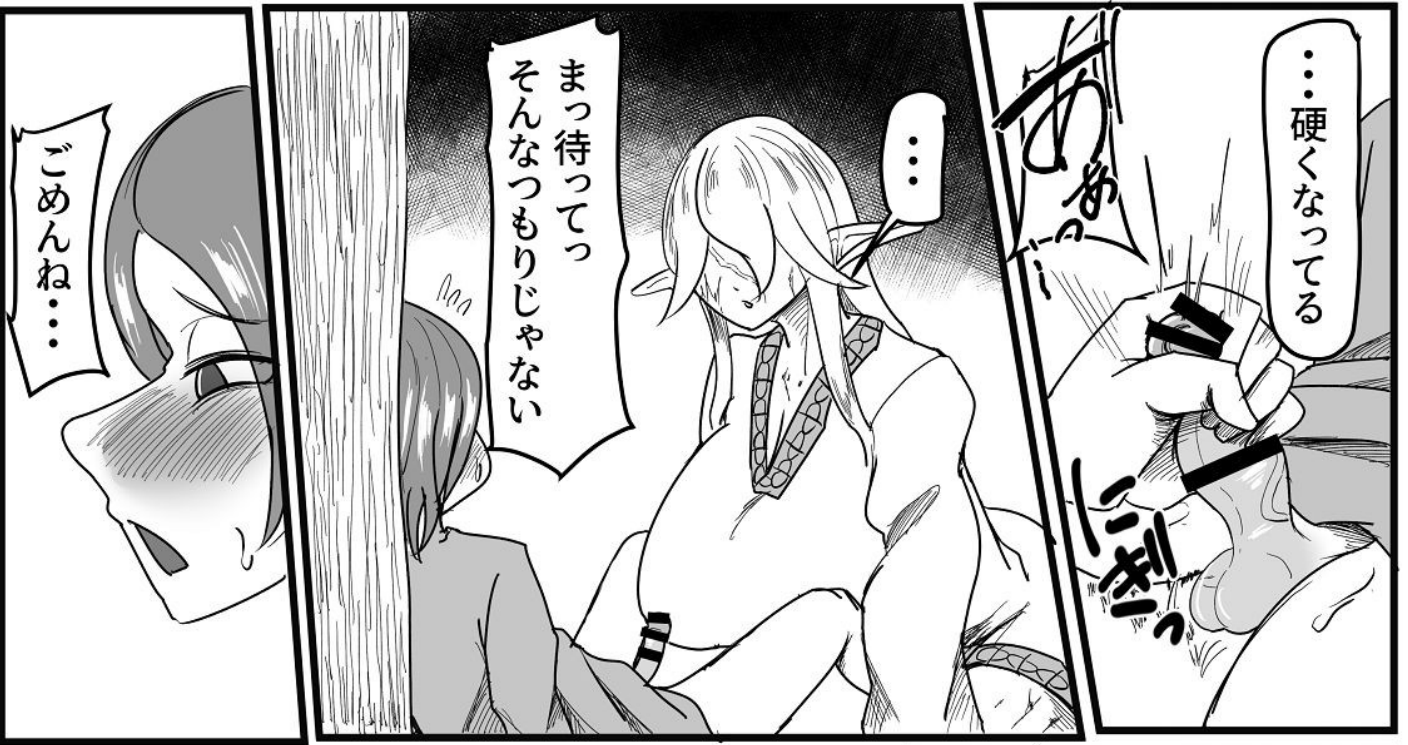
...うん
すごく距離が近く...

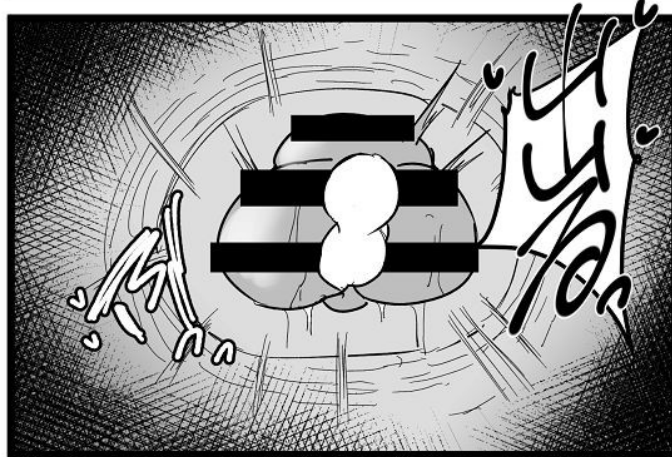
て...

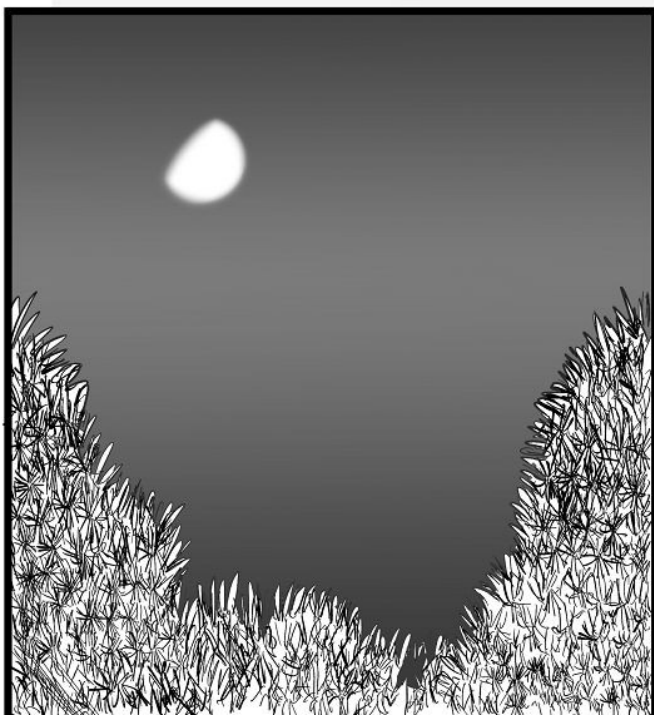
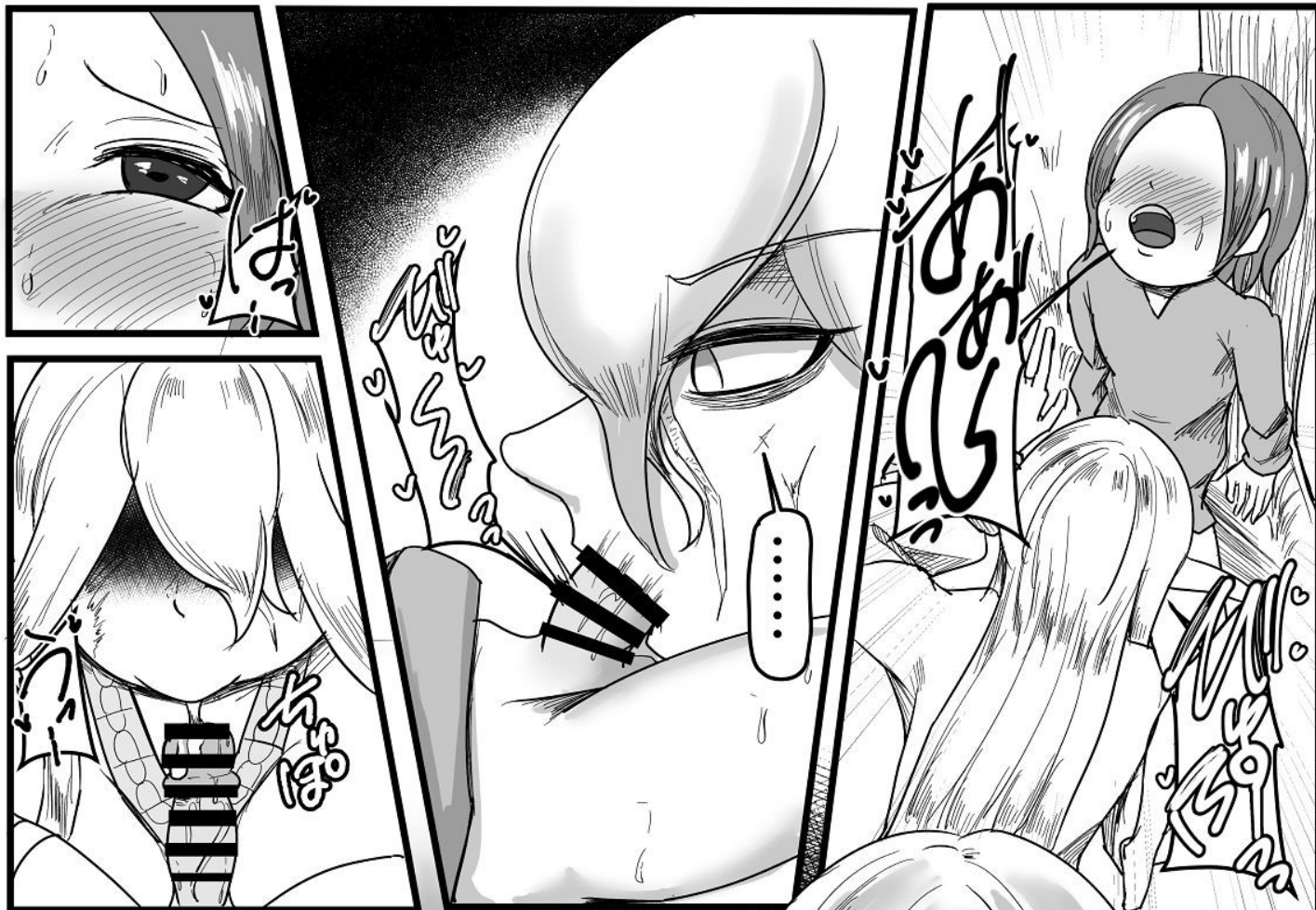














...



わっ はる、



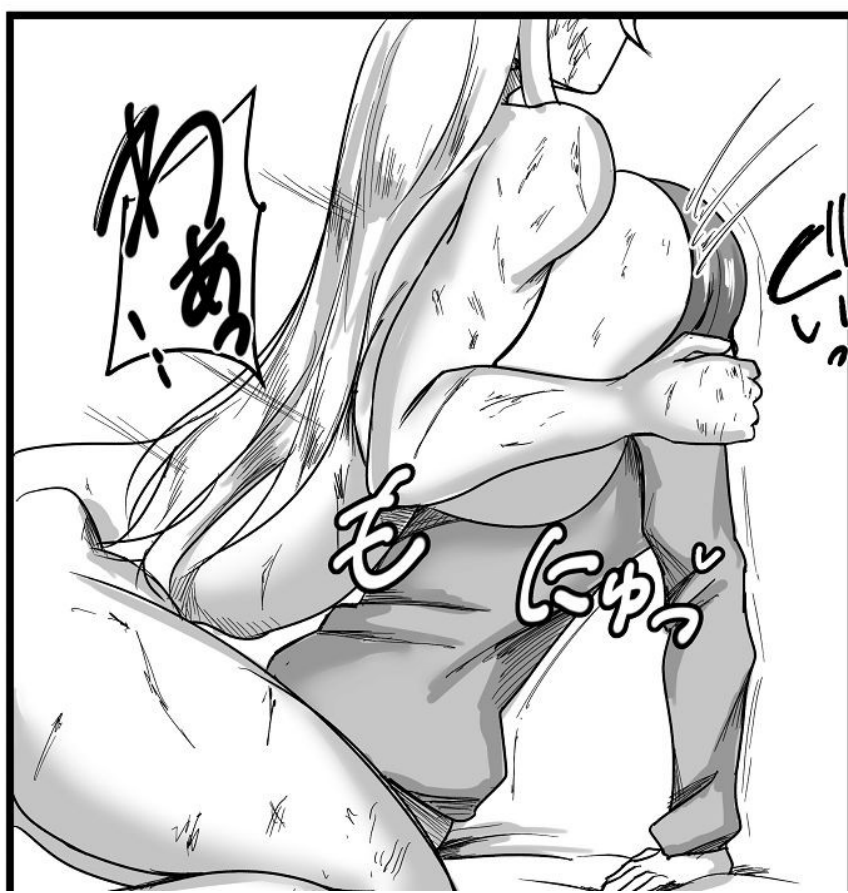
ど、どうしたの
今日は様子がおかしいよ

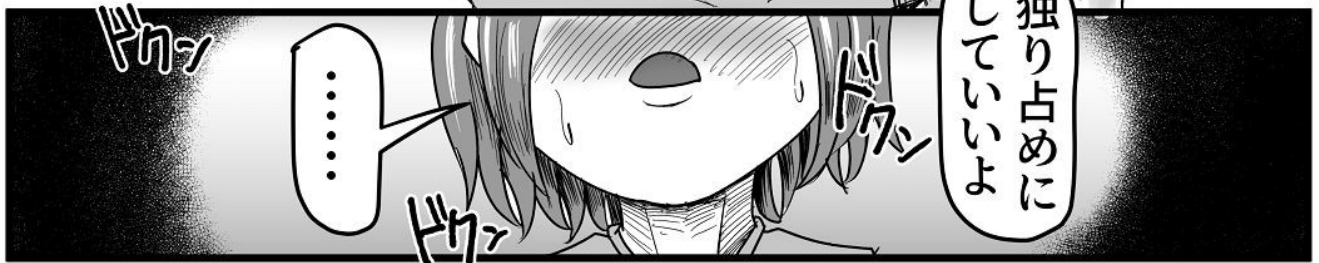
アッ:

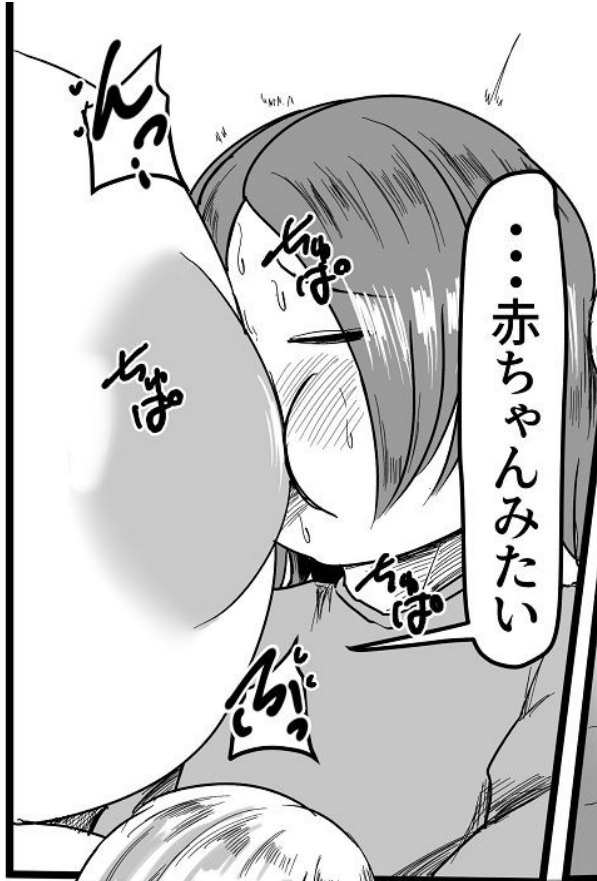
はる、



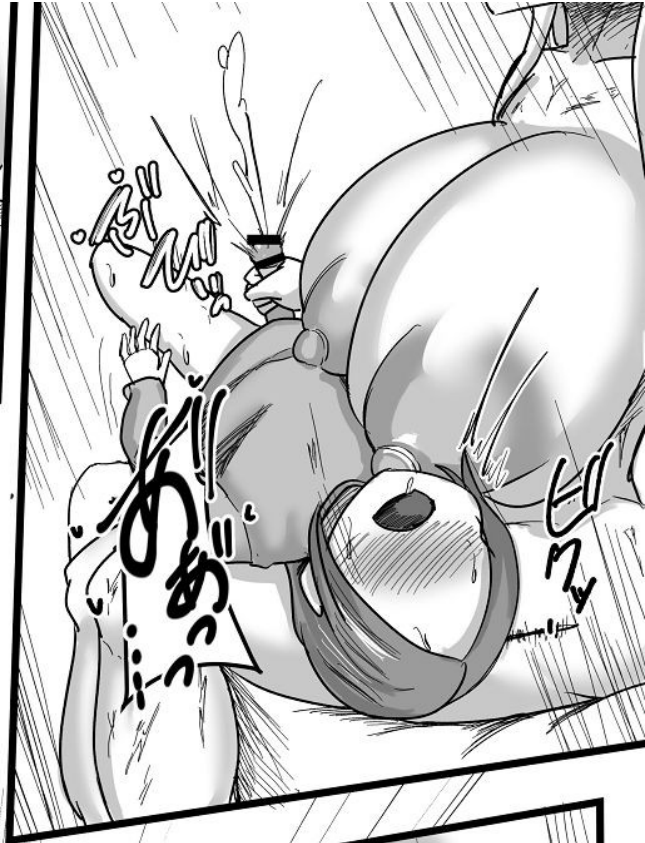
えっ

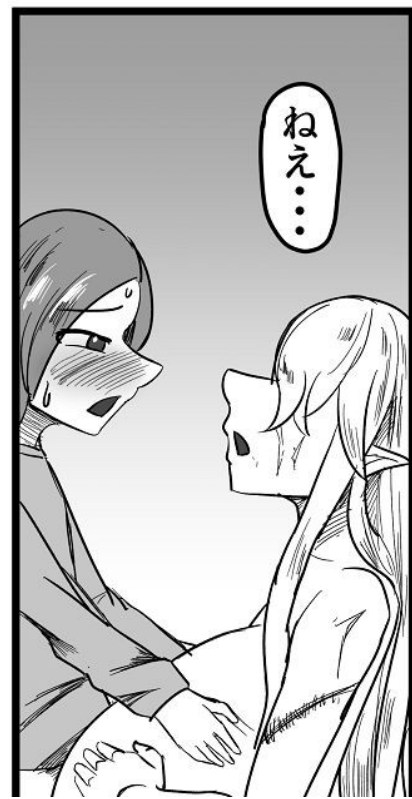
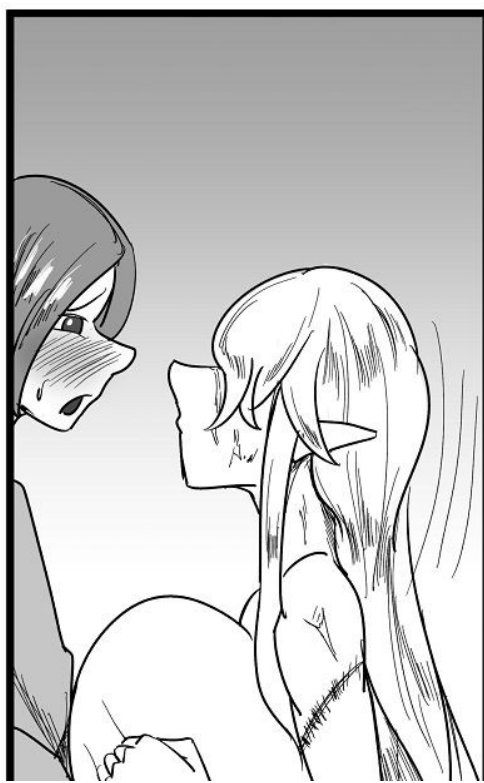






じゃあ次は
挟んであげる

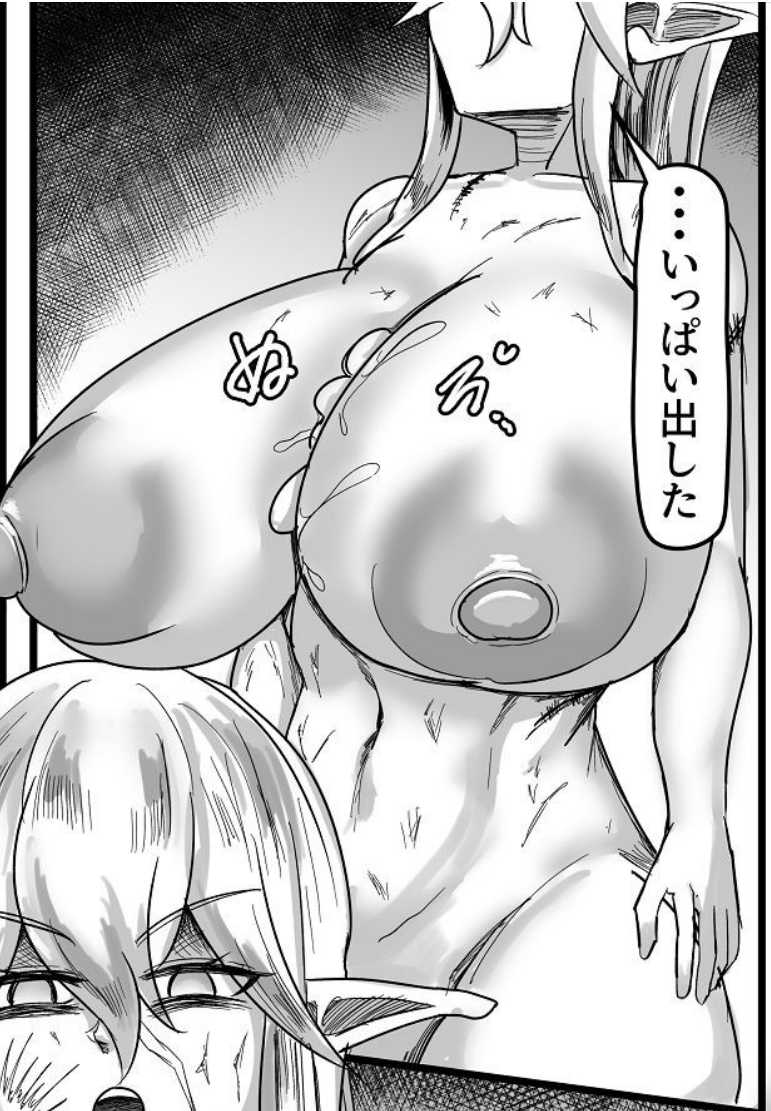




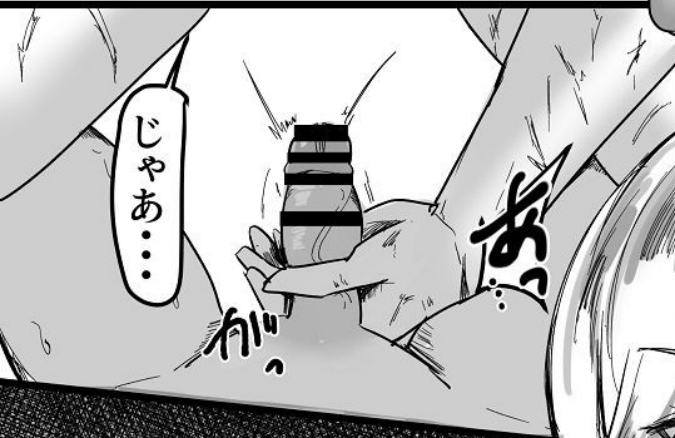




3発目なのに
まだ元気だね



…いっぱい出した



じゃあ…

あー

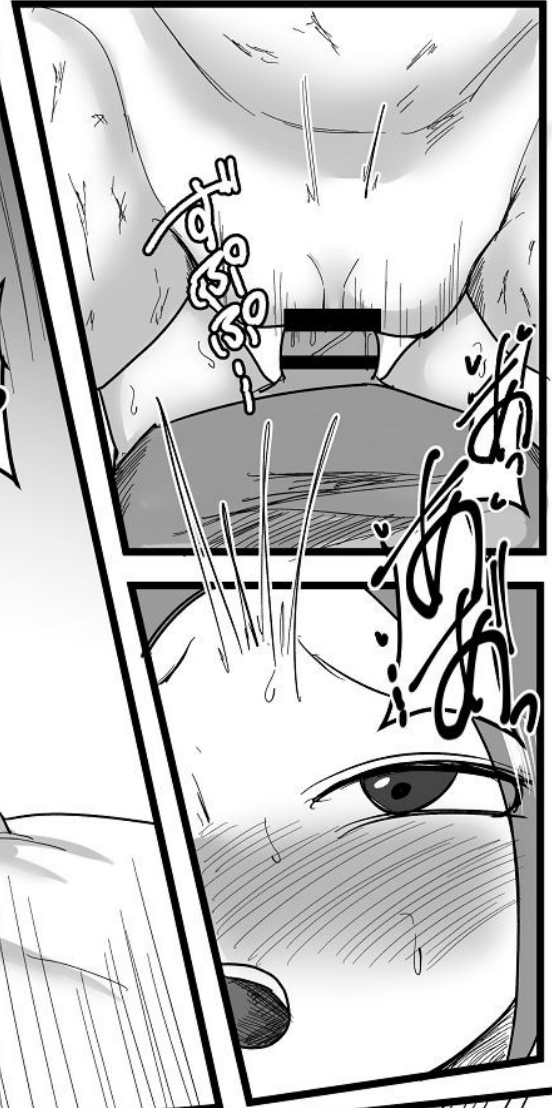
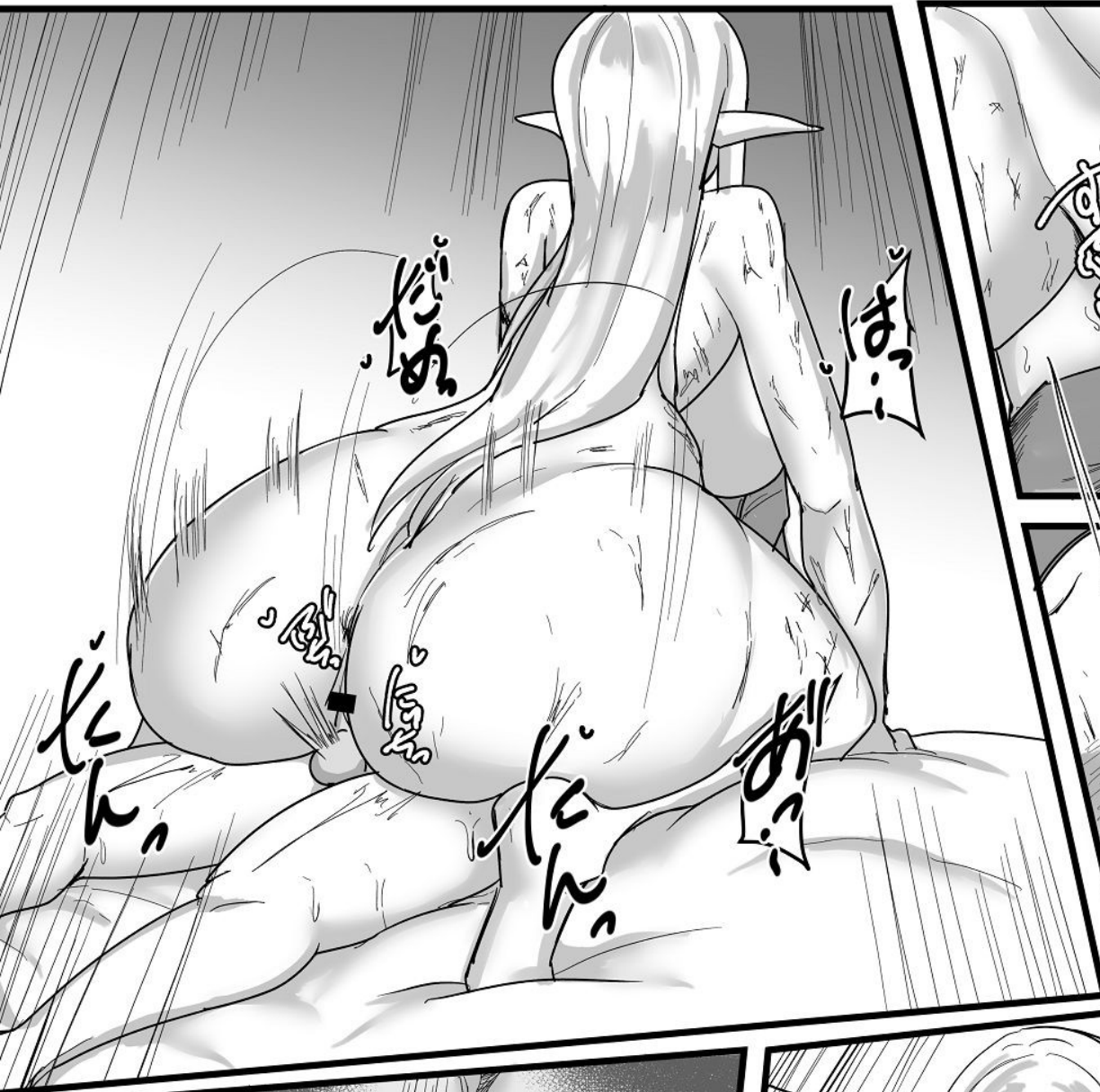
かっ

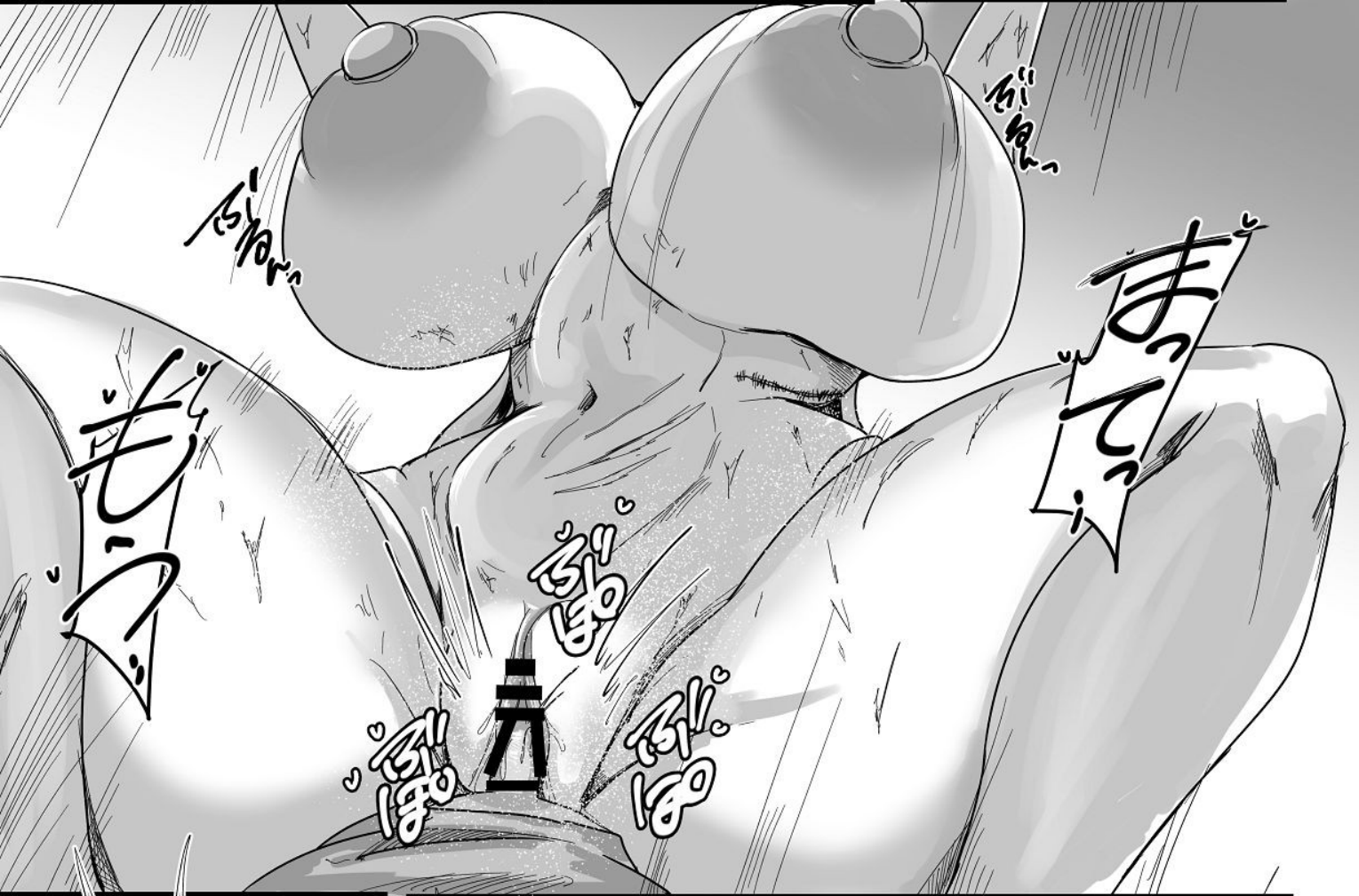


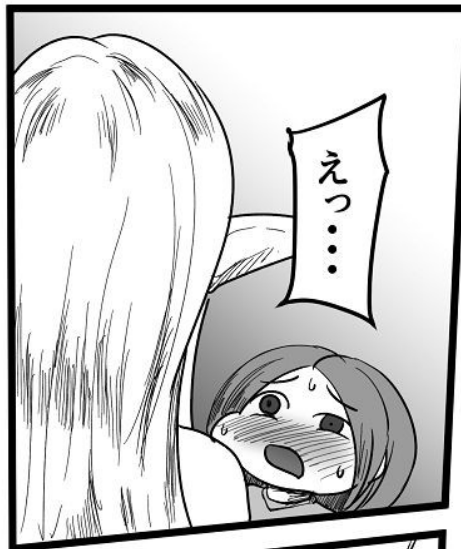
今度はこっちで
しよっか

あー
まって…
休憩…

かっ
きゅ…









もっとな〜

私が裸見せるたび...

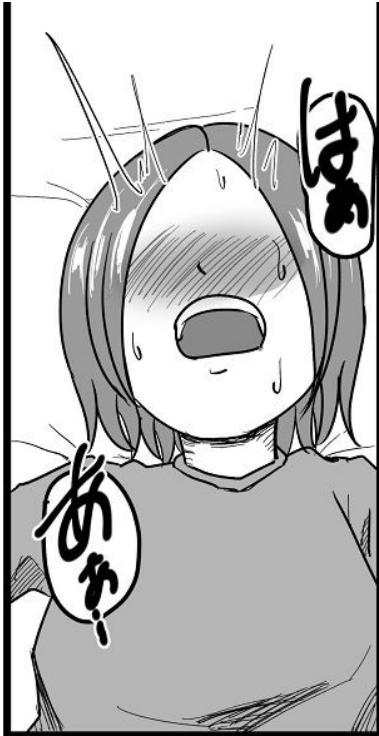
もっとな〜その顔
見せて...

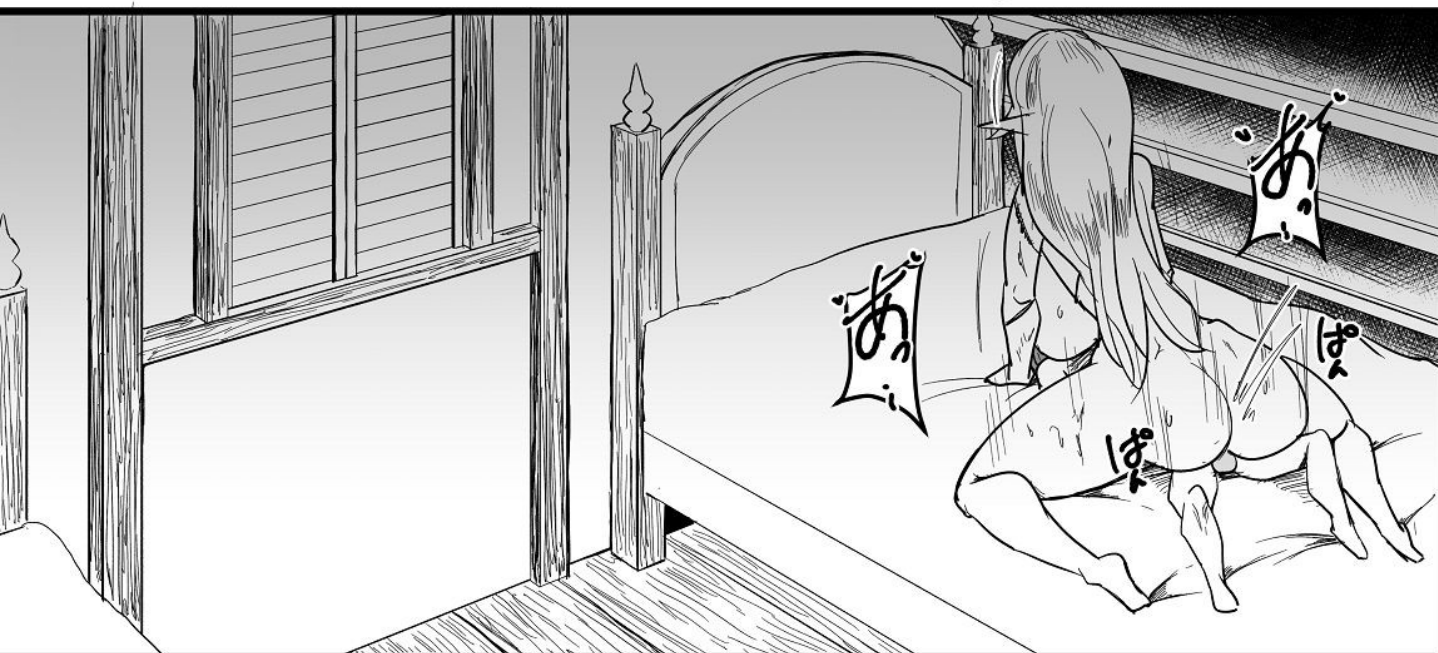
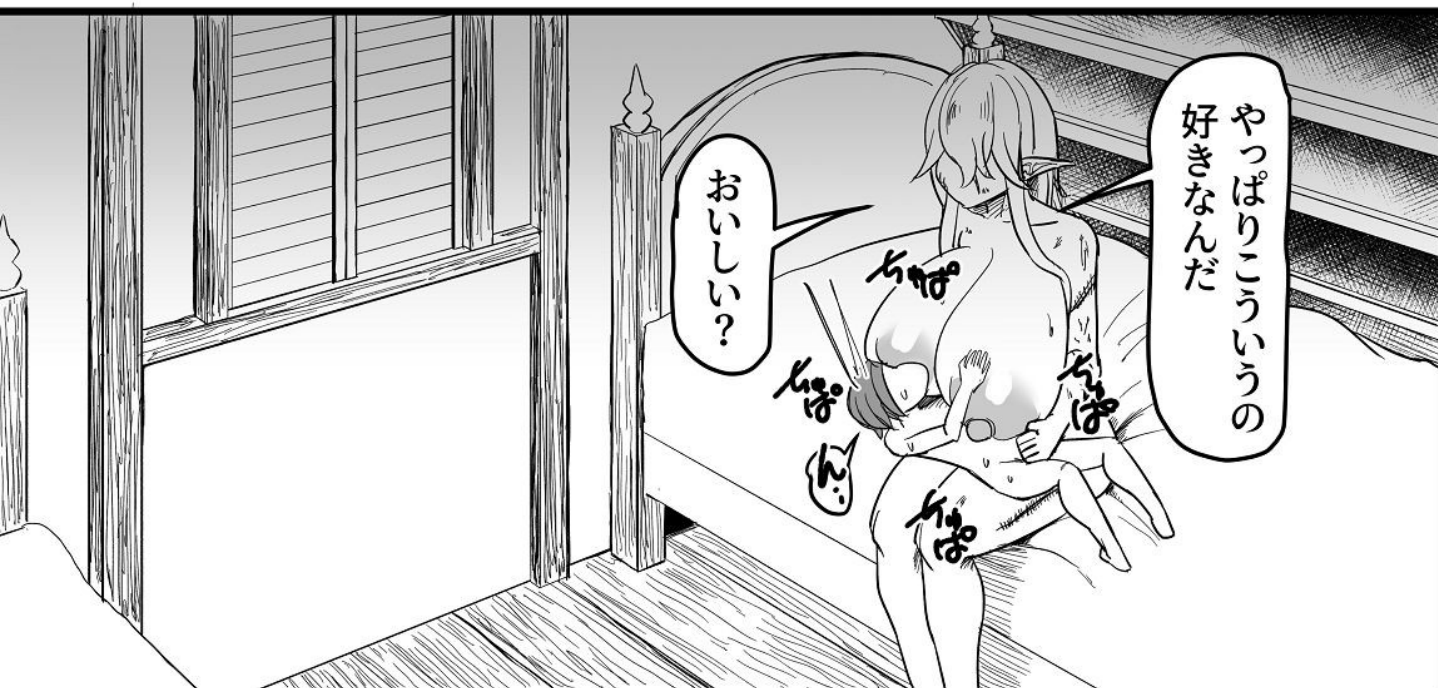


困った顔...

ずっとしてた...









自分から
腰振ったことある？

いや...

じゃあしよ



んん...
...ごめんっ

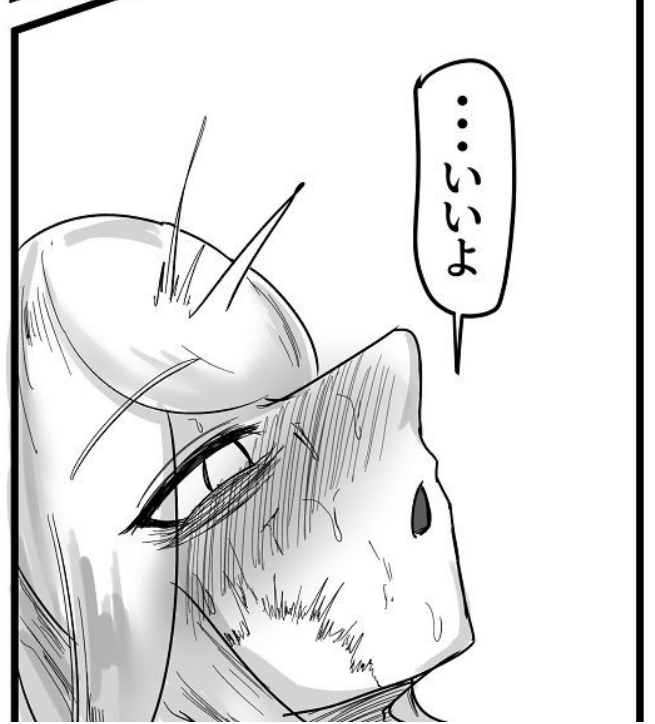
僕だけ
気持ちよくなって...

私も気持ちいいよ

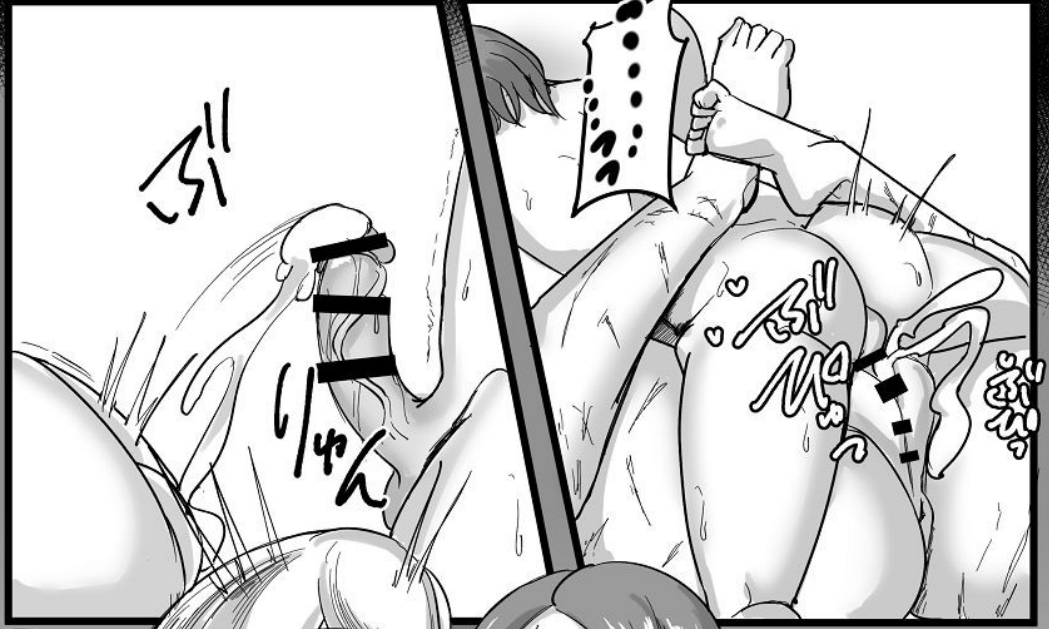
...ううん

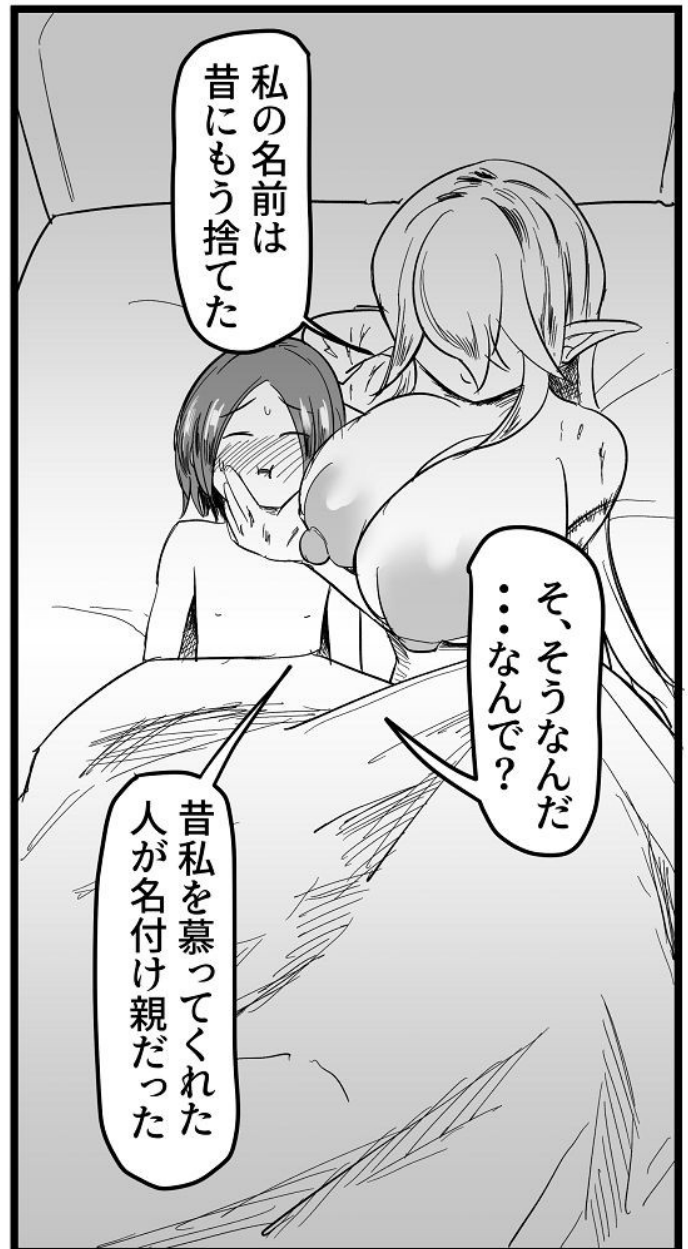
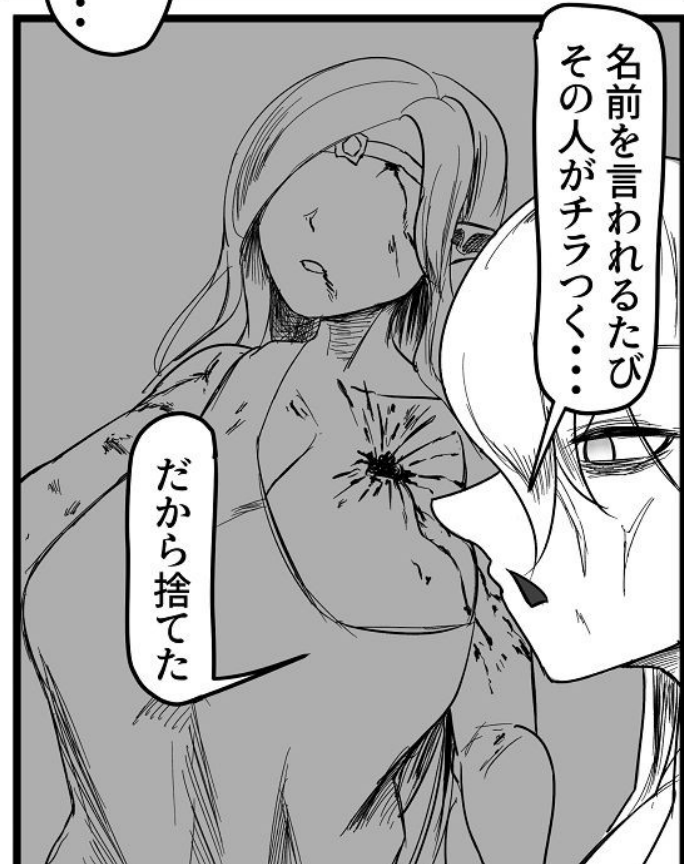


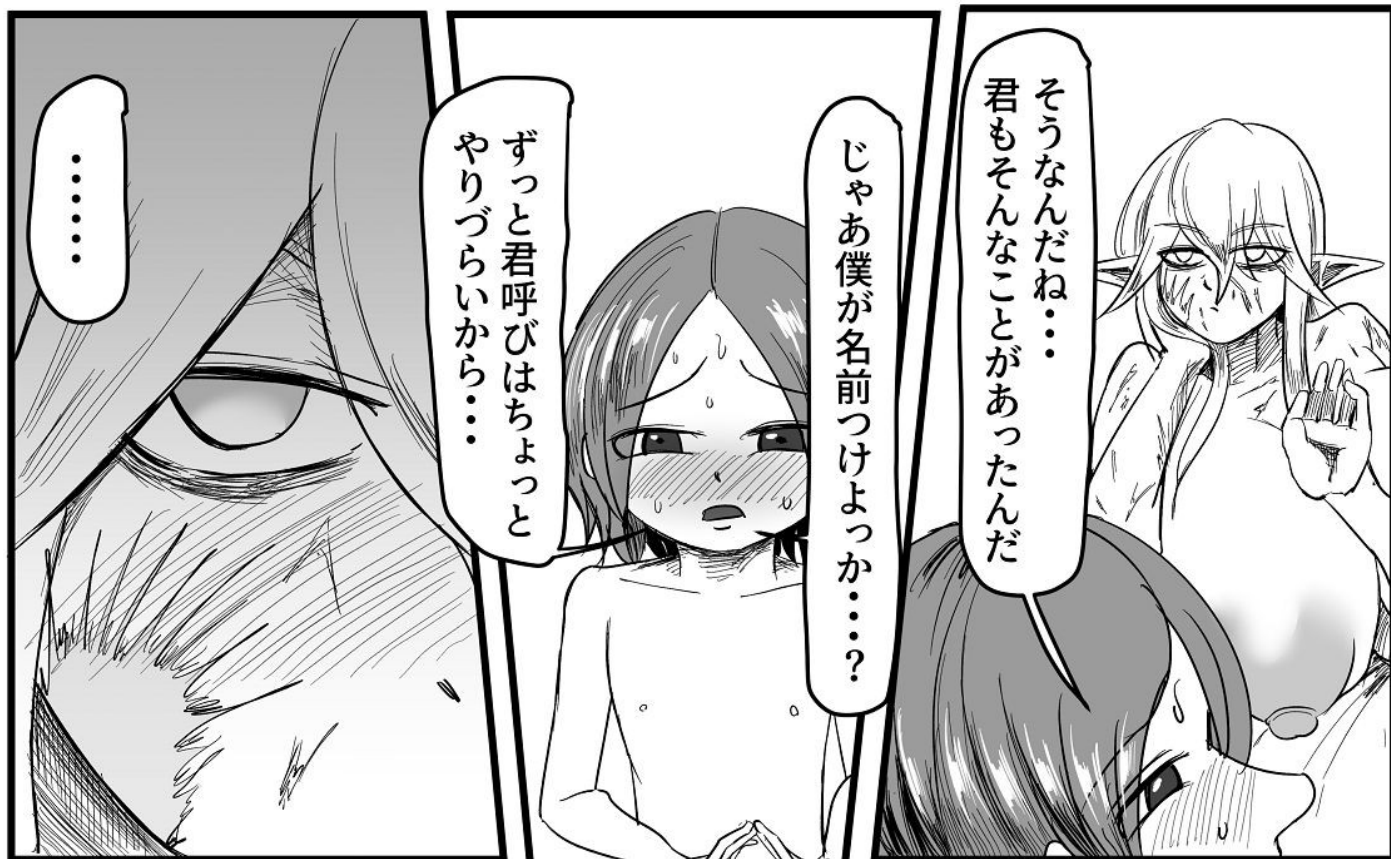












あとがき

ご購入いただきありがとうございました。

初コミケにもかかわらず70ページ近く描いてしまいました。
本当に完成するのかどうか不安でしたが、今この文章を読んでいただいているということは、無事に完成しているということでしょう。

究極シングルタスク人間ということもあり、自分のSNSの更新も愚かになってしまっていますが、また更新していこうと思います。

とりあえずコミケ参加して思ったことは・・・本当に疲れた!!
でもとてつもなく良い経験になったことは間違いないです。

改めてご購入していただきありがとうございました。

初コミケ
田中

